

令和6年4月26日

沖縄県議会議長 殿

会 派 名 沖縄・自民党

代 表 者 名 島袋 大



令和5年度政務活動費に係る収支報告について

沖縄県政務活動費の交付に関する条例第10条第1項に基づき、別紙のとおり令和5年度政務活動費収支報告書を提出します。



別紙

令和5年度 政務活動費収支報告書

会派名 沖縄・自民党

1 収 入 政務活動費 21,600,000 円

2 支 出

(単位:円)

項 目	支 出 額	備 考
調査研究費	8,890,257	航空運賃 宿泊代 船賃 バス借り上げ タクシー代 駐車料
研 修 費	0	
広聴広報費	2,258,382	会派ホームページ委託料 振込手数料
要請陳情等 活 動 費	0	
会 議 費	117,457	飲料(案分)
資料作成費	3,410	記事転載料
資料購入費	896,076	地元紙(タイムス・新報)データベース(新報)時事行政情報 クリッピング(沖縄タイムス)宮古毎日新聞 産経新聞 八重山日報 本土3紙(日経・朝日・読売) 地方財務実務提 要
事 務 費	1,907,198	リース代(コピー・PC・大判プリンター・紙折機)コピーカウント コロナ対策(検温器・空気洗浄機) NHK受信料 消耗品
人 件 費	7,247,693	給与(2人) 社会保険料 雇用保険
合 計	21,320,473	

注 備考欄には、主たる支出の内訳を記入する。

3 残 余 ￥279,527

経費区分別支出一覧表

経費区分 調査研究費

日付	使 途 内 容	支出額	充当割合	充当額
4/27	北海道視察旅費ホテルパック (4/23~4/27)8名分	1,759,000	その他	1,719,000
4/25	視察対応費(説明委員)	44,000	全額	44,000
4/11	お土産(郵送料)	10,144	全額	10,144
5/18	フェリー代(運天港⇄伊是名)往復(@3,500×4)	14,000	1/2	7,000
	フェリー代(伊是名⇄伊平屋)往復(@3,500×3)	10,500	全額	10,500
	環境協力税(@100×7)	700	全額	700
	宿泊代(伊是名村)(@6,000×3)	18,000	全額	18,000
	宿泊代(伊是名村)(@6,000×3)	18,000	全額	18,000
	宿泊代(伊是名村)(@5,300×1)	5,300	全額	5,300
	宿泊代(伊平屋村)(@5,950×6)	35,700	全額	35,700
5/19	伊是名→伊平屋(チャーター代)	12,000	全額	12,000
	運天港→伊平屋フェリー代(@4,720×2)	9,440	全額	9,440
	環境協力税(@100×2)	200	全額	200
	環境協力税(@100×4)	400	全額	400
	伊平屋視察にて駐車場代(バス利用)	660	全額	660
5/20	伊平屋→運天港フェリー代(@2,480×4)	9,920	全額	9,920
	伊是名・伊平屋視察の為(運天港駐車場代)(@700×1)	700	全額	700
	伊是名・伊平屋視察の為(運天港駐車場代)(@1400×3)	4,200	全額	4,200
7/12	台湾視察旅費代(7名分) 7/18~21	770,560	全額	770,560
8/20	南北大東島お土産(茶菓子代)	5,365	全額	5,365
8/21	タクシー代(議会→空港)(1台分)	1,330	その他	1,080
8/23	タクシー代(空港→議会)(1台分)	1,260	その他	1,080
9/1	南北大東島視察旅費(8名分) 8/21~23	504,000	全額	504,000
9/19	神奈川視察お土産(茶菓子)4個	5,365	全額	5,365
9/20	神奈川・東京視察旅費(沖縄⇄東京)往復(7名分)(ホテルパック)(バス借上げ含む)9/20~9/22	847,000	全額	847,000
9/20	交通費(県議会→那覇空港)	2,800	その他	1,890
	交通費(羽田空港→品川) 7人	2,100	全額	2,100
9/22	交通費(品川→虎ノ門) 7人	5,700	その他	2,310
	交通費(虎ノ門→茅場町)7人	4,000	その他	1,260
	交通費(茅場町→羽田空港)7人	17,900	その他	4,620
	交通費(那覇空港→県議会)4人	1,470	その他	1,080
9/28	東京視察旅費(沖縄⇄東京)往復 宿泊代(1人分)(10/25~26)	61,600	全額	61,600
10/20	東京旅費(沖縄⇄東京)往復 宿泊代(4人分)(10/25~26)	331,030	全額	331,030
11/17	ベトナム視察 茶菓子	7,715	全額	7,715
11/30	ベトナム視察旅費(飛行機 ホテル 借上げバス)	2,144,880	全額	2,144,880
2/5	広島 岩国 福岡視察旅費(ホテルパック 新幹線・車両借り上げ代含む)	2,448,000	その他	2,263,200
2/6	お土産 茶菓子(8個)	11,438	全額	11,438
	県議会→那覇空港 乗車代 @270×14	6,500	その他	3,780
	福岡空港→福岡駅 乗車代 @260×14	3,640	全額	3,640
2/7	大和ミュージアム入場料 @500×14	7,000	全額	7,000
2/9	宿泊税(福岡) @200×12	2,400	全額	2,400
A. 小計				
B. (ガソリン代総額 - 費用弁償(交通費)総額) × 1/2				
C. 支払証明書計				
調査研究費 充当合計(A+B+C)				8,890,257

視察調査報告書

経費区分	調査研究			
年 月 日	令和5年4月23日～27日			
場 所	・根室納沙布岬北方領土資料館・第一管区根室海上保安部・根室市役所・北海道庁 ・知床自然センター			
相 手 方	・根室市役所（副市長・議長・議員）・資料館副館長・第一管区根室海上保安部関係者 ・知床財団事務局長・道庁過疎化対策課関係者・北海道遺産協議会関係者 等			
的	1) 沖縄本島北部及び西表の世界自然遺産登録を受けて、先進国の環境保全並びに観光活用の取組み研究 2) 北方領土に関する現状と今までの取組み、並びに昨今の情勢を踏まえた環境の変化などに係る研究 3) 北海道におけるコロナ禍後の観光施設について、並びに移住・定住促進及び過疎地・へき地対策等に係る研究 4) スポーツを軸とした複合施設の在り方（施設の特徴や運用その他を含む）について先進地の事例研究			
日程概要	月日(曜日)	時 間	場 所	内 容
	別 紙 参 照			
内容	別 紙 参 照			
	別 紙 参 照			
備 考				

沖縄・自民党派 北海道視察

期間：令和5年4月23日～27日（4泊5日）

- ・往路 沖縄→羽田→根室中標津 8:00発（10:20羽田着、12:25羽田発）14:05着（ANA460便およびANA377便）
 ・復路 新千歳→羽田→沖縄 12:30発（14:10羽田着、15:30羽田発）18:15着（ANA62便およびANA477便）

視察の目的

- ① 沖縄本島北部および西表の世界自然遺産登録を受けて、先進地の環境保全ならびに観光活用の取り組みを学ぶ。
 ② 北方領土に関する現状と今までの取り組み、ならびに昨今の情勢を踏まえた環境の変化などについて視察する。
 ③ 北海道におけるコロナ禍後の観光施策について、ならびに移住・定住促進及び過疎地・僻地対策等について学ぶ。
 ④ スポーツを軸とした複合施設のあり方（施設の特徴や運用その他を含む）について、先進地の事例を視察する。

日	時	旅 程	
4月23日（日）	7:00	那覇空港集合	
	8:00	ANA460便にて羽田空港へ	所要2時間20分
	10:20	羽田空港着 →乗継→	乗継待機2時間
	12:25	ANA377便にて根室中標津空港へ	所要1時間40分
	14:05	根室中標津空港着	
	14:10	根室市 石垣雅敏市長と意見交換	15分程度
	16:30	納沙布岬・北方館にて北方領土の歴史等についてレク	北方館副館長対応
	17:30	ホテル着（イーストハーバーホテル 0153-24-1515）	
4月24日（月）	9:00	ホテル発、根室市役所へ	所要7分
	9:05	根室市 竹本副市長ならびに田塚議長と意見交換	根室市議会
	9:30	第一管区根室海上保安部にて北方領土関連レク	根室海上保安部
	10:30	根室海上保安部出発、羅臼町へ（移動中に昼食）	所要2時間半
	13:30	羅臼国後展望塔にて国後島を視察	
	16:30	ホテル着（知床第一ホテル 0152-24-2334）	
4月25日（火）	8:30	ホテル出発、知床自然センターへ	所要20分
	9:00	知床自然センターにて、世界自然遺産に関するレク等	知床財団
	13:00	知床自然センター出発、女満別空港へ（移動中に昼食）	所要2時間半
	17:00	女満別空港着	
	17:55	JAL2718便にて新千歳空港へ	所要45分
	18:40	新千歳空港着、荷物受け取り後視察車両にて移動	所要1時間半
	20:00	ホテル着（三井ガーデンホテル札幌 011-280-1131）	
4月26日（水）	9:30	ホテル出発、北海道庁へ	所要10分
	10:00	北海道庁にて道内の取り組みレク	北海道庁担当部局
	11:30	北海道庁出発、昼食	
	13:00	北海道遺産に係る取り組みレク	NPO法人北海道遺産事務局
	15:00	エスコンフィールド北海道視察	（株）ファイターズスポーツ ＆エンターテイメント
	17:00	札幌市へ移動	所要1時間
	18:00	ホテル着	
4月27日（木）	10:30	ホテル発、新千歳空港へ	所要1時間
	12:30	ANA62便にて羽田空港へ	所要1時間40分
	14:10	羽田空港着 →乗継→	乗継待機1時間20分
	15:30	ANA477便にて那覇空港へ	所要2時間45分
	18:15	那覇空港着、解散	

※ 日程のうち、網掛け部分についてはスーツまたはジャケット着用のこと

1	津田 家治	4月23日那覇空港から羽田空港乗継で北海道中標津空港へ移動。那覇の気温は23℃中標津は3℃。あらためて日本の南北の広さを感じました。 早速、北方領土のまち根室市へ移動。納沙布岬の「北方館」にて副館長から北方領土の歴史から現状に至るまで説明を受けました。目の前の貝殻島の灯台までわずか3.7km、水晶島まで7kmとなんと近いことか。近くて遠い北方領土だと痛感しました。 4月24日は根室市役所にて副市長、市議会議員等からの説明を受け、意見交換を行いました。旧ソ連に侵略されてしまった北方領土の史実を聞くと、ロシアのウクライナ侵攻からロシアの侵略戦争という国家戦略を感じました。 副市長の説明から元居住者数が17,291人、新元居住者344人。元から4世を合わせると35,038人(R4.12現)とのことで、返還が実現するまで、根室市、国、道も予算を確保して活動を続けていくとの強い意志が伝わってきました。 沖縄の小中学生が豆記者として、毎年訪問しているとの事でお互いの交流を大切にしたいです。 次に訪問したのは、第一管区海上保安本部根室保安部での説明と意見交換を行いました。沖縄の第十一管区と同様に国境の海ということで、領海警備、密漁の摘発、外園船の監視、海難事故等の対応など、緊張感を感じました。歴史的にも漁業に関する難しさがあったようで、はじめて聞くお話もあり、表では語れない史実を開けたことは貴重でした。 4月25日は、世界自然遺産の関係で訪問した知床財団の事務局長から説明をお聞きし、実際に1時間のフィールドワークを行いました。財団の維持管理、公園内の管理、スタッフの育成など、多岐に渡りご苦労があるようで、沖縄本島北部、西表の世界自然遺産の管理運営の難しさを感じました。 4月26日は、北海道庁を訪問し、(1)新型コロナウイルス感染症の収束後における北海道の観光政策(2)北海道の移住・定住促進政策(3)北海道のへき地・過疎地対策から説明を聞いたのち質疑応答の時間となりました。 急激な過疎化対策や移住者対策がかなり進んでいると感じました。観光部門でのアドベンチャータラベル(AT)の取り組みのエネルギーを感じました。 最後の訪問は、北海道遺産協議会からの説明です。文化財や古くからの文化等を残していく北海道遺産の登録や審査や管理、広報を行なっており、民間企業とのタイアップ連携が素晴らしい。沖縄県も民間団体や企業とのタイアップで遺産、伝統・食文化等の継承に取り組むべきだと思います。 今回の視察では北方領土、自然遺産等の沖縄県とお相通じることを感じました。これからの議会活動に活かしていきます。
2	島尻 忠明	今回4月23日～4月27日の日程で北海道視察を行いました。毎年2月7日は北方領土の日として日本固有の領土、北方領土の一日も早い返還の取り組みが開催されていますが実際に現地に赴き北方館にて現状について館長よりお話を伺い北方四島も目視し改めて距離間の近さに考えさせられました近い島迄は約3、7kmであり中間点には貝殻灯が設置されておりその地点を超えるとロシア側になるとの事で更に道民が漁に出る為にはいろいろな制約があり厳しい現実を聞きました。元島民も高齢化する中ビザなし交流も中断されており昨今の国際情勢もありなかなか先が見えないが日本国民が一致団結して返還に向けて取り組みが一層求められます。第一区根室海上保安部に於いては沿岸警備について説明を受けました。 知床自然センターにて保全に関する取り組みと沖縄の西表島との取り組みも説明を受けたのち現地も確認し自然保護は息の長い取り組みと多くの関係者の方々の理解を得ているのだと感じました。エスコフィールドはボールパークの新しい取り組みがありこの施設を中心に温泉、ホテル、子供の遊具等地元企業も巻き込んでいまだいテーマパークを形成する新しい取り組みでした。この視察を通して学んだのは北海道の各自治体は地域の課題に取り組む中でやはり人口減少、少子高齢化、過疎化に真正面から向き合っていないと厳しいという話があり我が沖縄県も早めにこの課題に取り組まなければと感じました。
3	下地 康教	北方領土及び第一管区海上保安部視察 ・納沙布岬に立つと、北方領土の一番近い島、歯舞諸島が手に取る様に眼前に臨むことができる。距離にして僅か3.7km。その中間距離1.85km地点を第一管区海上保安部の巡視船とソビエトの監視船が行き交う。岬のそばにある「望郷の家」と「北方館」では、これまでの北方領土に係る歴史と歴代の北海道開発長官が訪れた写真などが展示され、そこでの説明は、地元の人々が北方領土の返還をどれほど強く望んでいるのかが、ひしひしと胸に伝わるものであった。我が国の固有の領土を守り抜くことは、日本国民のアイデンティティを示すものであり決して諦めてはならない問題である。そのことを、政治活動の基本に据え、議会活動に活かしていきたい。 ○北方における定住促進及び過疎対策 ・人口減少、過疎化問題への取り組みは、全国どの地域でも重要課題となっている。北海道は、開拓・開発の歴史を経て、ヨーロッパの一国にも匹敵する人口を有して来たが、平成9年の569万人をピークに減少に転じている。現在では過疎市町村の割合は、沖縄県の46.3%に比べ北海道は85.5%となっており、過疎化の進行が最も高い地域の一つと言われている。 過疎対策の主な施策として、1)移住・定住の促進、2)関係人口の創出、3)地域間交流の促進、4)人材育成の確保を掲げている。沖縄県の人口減少・過疎化問題も喫緊の課題である。今回の視察を今後の政策検討に活かしたい。 ○知床世界遺産の環境保全と観光資源の活用について ・知床世界遺産は2005年7月に登録され、知床財団がその管理を行なっている。知床が世界遺産として評価された主な点は、1)流水の制限、2)国際希少動物シマフグロウ、オジロワシの越冬地などの生物の多様性、3)1964年に国立公園の指定を受けて以来、自然保護体制が確立されてきたことなどとなっている。 沖縄県における本当北部及び西表の世界遺産登録を受けての観光資源活用を含めた管理体制への施策構築に係る議会での議論に役立てたい。

4	中川京貴	1 沖縄本島北部及び、西表の世界遺産登録を受けて、先進地の環境保全並びに観光活用の取り組みを学ぶ 2 北方領土に関する現状と、今までの取り組みならびに昨今の情勢を踏まえた環境の変化等について視察する 3 北海道におけるコロナ禍後の、観光施設について、ならびに移住、定住促進及び過疎地、僻地対策等について 4 スポーツを軸とした複合施設のあり方(施設の特徴や運用その他を含む)について先進地の事例を視察する 根室市長、中司哲雄北海道議会議員、足立計昌根室市議会議員と意見交換を行った。 また、根室市役所にて、竹本雅哉根室市副市長、田塚不二男議長や、市役所職員より説明を受け、戦後のどきどきでロシアに侵略され、実効支配されてしまった択捉島、国後島、色丹島、歯舞諸島については、海上保安部 管理課長 根室海上保安部長、根室港長より北方領土の領海、警備、密航の摘発と外国船の監視など、保安の確保、海難対応等、第一管区海上保安部根室保安部でのレクチャーと意見交換を行った。 知床自然センターの視察については、世界自然遺産の管理をどのようにしているのか、知床地域の管理や研究をしている知床財団事務局長より説明を受けた。施設管理、オーバーツーリズムの規制利用者に対する教育、子供たちを始めとする知床や野生動物の情報の周知生態の研究等、北海道には日本遺産が5件あり、北海道遺産が74件ある豊かな自然はもちろん、北海道に生き暮らしてきた人々の歴史や、文化、生活産業など、次の世代への大切に引き継ぎたい。有形 無形の中から道民参加によって選ばれたもの、それが北海道遺産と説明を受けた。 コロナ禍後の観光については、北海道の予算は約3兆円前後で人口も約520万人余りコロナ禍前は、世界中からの観光客が北海道の山や川、自然はもちろん、人々の歴史や文化生活を体験したく、訪れていた。コロナ禍後は、市町村との連携やプロモーション等も含め北海道の魅力アピールした。 エスコンフィールド さんより球場内を詳しく説明して頂き、新しい駅の建設や、近くのホテルや温泉 球場内での飲食店やファーストフードや地域の有名店、高級店など、野球ファンがもちろん、家族連れの皆さんに喜ばれる施設が充実していた私ども沖縄県においても、那覇空港の第二の滑走路整備に伴い石垣空港、下地島空港と国外線が3ヶ所ありモレールの整備延長されている一千万観光立県、1兆円観光産業立ち上げ取り組んできたが、さらなる空港 港湾 クルーズ船を含む観光、農業、漁業サービス業 プライダル産業を含んだ事業を進めなければならない。
5	石原 朝子	知床自然センターを訪問し、日本で初めて海域を含んだ世界自然遺産登録地(平成17年7月)である北海道「知床世界自然遺産」の自然遺産活用と環境保全の取り組みについて、公園管理団体である知床財団事務局長より説明を受けた。特徴的なことは、知床財団一団体だけで知床の「自然を守り・守り・伝える」活動として国立公園管理、野生動物のマネージメント、自然復元、調査・研究・環境教育、施設運営、利用者サービスを約50名のスタッフで行っていることであった。全国的に見てもここだけのことであった。自然遺産の観光活用においても増加する観光客対策、観光地の適正利用は様々な規制がある中、規制の必要性を訴えるだけではなく「規制」によるメリットや「満足感」を体感できる観光活用の仕組みづくりについても試行錯誤しながら取り組んでいた。沖縄本島北部及び西表の世界自然遺産登録(令和3年7月)を受けて、観光産業の活性化が期待されますが、観光客の増加により過剰な利用に伴い自然環境の負荷が増大することから利用の適正な管理など様々な課題解決についても公益財団法人知床財団(平成23年設立)の取り組みを参考にしたいものである。「北海道ボールパークビレッジ」については、宿泊施設や飲食施設、子育て支援施設、地域防災拠点施設等、今後の北海道及び地元北広島市の街づくりにより大きく寄与する希望に満ちた施設であった。今回の北海道視察では、自然遺産保全と観光活用の厳しさ、少子高齢化、急速な人口減少による過疎化対策については、我が沖縄県においても北海道同様重要な課題であり、今後の議会活動に活かしていきます。毎年2月7日は「北方領土の日」として北方四島領土返還に取り組んでいます。しかしながらウクライナ情勢によって日露関係は厳しい状況にあり、北方四島交流事業も停止され再開の見通しは立たなくなっているとのことであった。北方領土の四島返還が、日本国民の一人一人の問題であることを改めて肝に銘じ、共に返還実現に向けて取り組んでいきたい。国境の海を守る第一管区海上保安部根室保安部の領海警備、密航の摘発、外国船の監視、海難事故等の対応についての説明を受け貴重な意見交換をすることができました。北海道におけるコロナ収束後の観光政策としては、アドベンチャートラベルの推進による北海道観光の高付加価値化に向けた取り組みを実施。若年層や子育て世代をターゲットに移住・定住施策を推進。過疎地、へき地対策については、北海道過疎地域持続発展方針の説明を受け意見交換をすることが出来ました。
6	八波良太郎	今回の視察の内容は大きめに分けて4本立て、「北方領土関連」「世界自然遺産知床関連」「北海道の観光政策と最新鋭の施設整備状況」「広大な故の僻地過疎地対策と移住定住促進の取り組み」でした。 初日～2日目にかけて、北方領土について。 以前から尖閣有事を懸念する声が無視出来ない昨今の沖縄においては、昨今のウクライナ情勢だけでなく「ロシアの軍力による現状変更と実効支配」の顕著な例である北方領土問題から学ぶことはとても多い。 初日に納沙布岬の北方館から見た歯舞諸島や翌日羅臼の展望台から見た国後島は北海道本土から本目と鼻の先であり、沖縄本島から見た慶良間諸島よりも近い位置にあった。当時の日露間の国際条約に違反して、ポツダム宣言受諾後の混乱期に侵略され、今日に至るまで実効支配され続ける北方領土。「実効支配」されているが故に、漁業を営むにも外交交渉の後に入漁料を支払わなければならない、それでも時折ロシア側の臨検を受けて漁船が拿捕されたりする。北方領土の返還とは別に、尖閣を抱える沖縄は北方領土のことを決して他人事としてはならないと感じました。 中盤の3日目は世界自然遺産の活用と環境保全の取り組みを知るため、知床へ。天気にも恵まれ、素晴らしいロケーションの下で座学とフィールドワークをしました。世界自然遺産に登録されるエリアは日本国内に5ヶ所(屋久島、白神山、知床、小笠原諸島、奄美・徳之島・やんばろおよび西表)ありますが、アクセスのしやすさや従来の保全形態等を鑑みると、やんばろや西表の活用と環境保全両立のためには知床から学ぶことが多いと考えています。我々が保全すべき豊かな動植物等うち昆虫だけは寒冷地のため事例を聞くことはできませんでしたが、環境保全と観光活用の両立についてはとても参考になるものが多い視察でした。 後半戦の4日目は札幌に移って、北海道全体の事業や得意な取り組みについての勉強。国内有数の観光地として名高い沖縄と北海道ですが、正直観光政策は北海道の方が一歩も二歩も進んでいる印象でした。「量から質への転換」がコロナ禍前の沖縄における主要な政策テーマでしたが、北海道は既に「質の向上」に邁進していて、またエリア毎の魅力の書き出しも主だった部分は完了している模様。午後には訪れた北海道遺産協議会の取り組みと併せて、難島や空港から遠いエリアの魅力PRが急務だと感じました。 また過疎地僻地対策と移住定住促進についても、国のワーケーション推進に乗かって進めていて、特に北見と十勝の事例はとても参考になりました。午後には訪れたエスコンフィールド北海道は、昨今の報道では本拠地移転後の苦戦が取り沙汰されていますが、「シーツの売り上げだけに頼らない様々な取り組み」を目にするのが出来、今後のスポーツ施設整備のあり方を考える上でとても参考になりました。 今回の視察研修は移動の都合もあって5日間と些か長めの日程でしたが、いざスタートしてみればあっという間に過ぎ去った印象で、しかし持ち帰った資料の整理には1週間以上かかるという、とてもボリューム感のある行程でした。持ち帰った知見は、県への提案だけでなく民間の方々との意見交換にも積極的に活用出来るものであり、今後前面に押し立てて取り組んでいこうと思います。

難島を除けば日本の最東端に位置する納沙布岬。ここからは北方領土の歯舞群島が間近に望め、一番近い場所にある貝殻島まではわずか3.7kmだった。岬には「望郷の岬公園」が整備され、四島の架け橋と名づけられた巨大なモニュメントに加え元島民が運営する北方館や望郷の家、そして根室市北方領土資料館では北方領土について学ぶことができた。北方領土が手に届くほど近くに見える納沙布岬について以下のとおり。アイヌ語の「ノッ・サム（岬の傍ら）」から地名が付いた納沙布岬（のさぶみさき）は、北海道根室市の根室半島の先端にあり、難島を除けば日本の最東端に位置する岬で眼前には北方領土がはっきりと確認できた。納沙布岬沖の珪瑤瑯（ごようまい）水道を挟んだ海の向こうにロシアが実効支配している北方領土の歯舞（はばまい）群島が広がり、古い灯台が立つ貝殻島までは3.7キロメートル、その隣にある水晶島までは7キロメートルという近さで、肉眼で島々を望むことができた。納沙布岬には「望郷の岬公園」が整備されていて、そこに世界平和と「北方領土」返還を祈念するために作られたシンボル像「四島（しま）のかけはし」が建っている。このモニュメントの大きさは高さ13m、底辺の長さ35m。択捉島、色丹島、歯舞群島、国後島の四島をアーチで結びつけたデザインになっていて、中央には1972年（昭和47年）アメリカから返還された沖縄県波照間島で採火し、キャラン隊によって運ばれた「祈りの火」が四島返還を願って燃えている。四島のかけはしとそばには平和の鐘があり、北方領土の1日も早い返還と平和に願いを込めて鐘を自由に鳴らすことができる。四島のかけはしと同じように北方領土を見守るのが1872年に初点灯した「納沙布岬灯台」で、北海道では初の洋式灯台であることから納沙布岬は「北海道灯台発祥の地」とされている。海の日や11月1日の「灯台記念日」、根室秋刀魚祭りなどのイベントの際には特別参観ができるので、そのタイミングで納沙布岬を訪れ灯台から北方領土を望むこともできる。毎年2月7日は「北方領土の日」、その日だけ北方四島について考えるのではなく、納沙布岬を訪れ、今後北方領土の事を学ばなければならなかった。第一管区根室海上保安部表敬並びに北方領土について第一管区は、北海道全域を管轄し、その沿岸海域をはじめ周囲に広がる太平洋、日本海、オホーツク海を担任水域とし、北海道小樽市にある第一管区海上保安本部のほか、19箇所ある海上保安部署・航空基地等と37隻の巡視船艇、14機の航空機により、日夜、海上保安業務に当たっている。海上保安庁の管区は第七管区海上保安本部 海上保安庁は、東京に本庁があり、全国を11の海上保安管区に分けて海上保安業務を行っている。それぞれの管区には、管区海上保安本部があり、その下には、各地に海上保安（監）部、海上保安署、航空基地、水路観測所、海上交通センターなどを置いている。当部の管轄区域は、根室市、別海町、中標津町、標津町及び羅臼町の1市4町で、担当する海域は、根室海峡では北方四島との地理的中間線まで、根室半島以南の海域では色丹島の南東方向の沖合海域となっている。主要な業務は、北方四島周辺海域における海上の警備、我が国漁船がロシアに逮捕等されることのないように指導すること、漁業関係法令その他の法令違反行為の取締り、ロシア等の外国船舶の監視取締り、海難救助、航行援助業務等。根室海峡の最も狭い場所（北海道納沙布岬と北方領土である歯舞諸島（貝殻島）との間）は3.7kmほどしかなく、陸岸から2kmに満たないところにロシアとの境界線が存在し、その他の根室海峡部についても、日ロ間の地理的中間線は本来の領海幅員の12海里に満たないという現実が突きつけられている。このような環境下で、ロシア側の国境警備当局の勢力と直接対峙しながら海上の警備を実施し、日本漁船の被た捕防止指導を現場にて実施するに際しては、我が国の主権行使の任に当たっていることを常に自覚し、関係機関との緊密な連携を維持しながら、毅然たる姿勢をもって適時の確な措置をとることを心がけているとのことだった。

7 中里 今子

知床自然遺産センターについて

平成17年7月17日に知床は世界自然遺産に登録された。登録に当たっては、流水が育む豊かな海洋生態系と原始性の高い陸生生態系の相互関係に特徴があること、シマフクロウ、シレットコシメ等の世界的な希少種やサケ科魚類、海棲哺乳類等の重要な生息地を有すること等が評価された。世界的に見て普遍的な価値を有する知床の自然環境を将来の世代まで引き継いでいくため、環境省を始め、関係機関により様々な取り組みが始められている。

知床世界遺産センターは、ヒグマやエゾシカなどの知床に住む動物の実物大の写真や、ヒグマの爪痕など動物の痕跡の模型を展示し、知床の自然の素晴らしさと利用にあたって守るべきルール・マナーを伝えている。また、知床世界遺産の見どころや自然のリアルタイムの情報について伝えるとともに、知床世界遺産の管理について最新の情報を提供している。また、網走監獄は、明治以来、網走市と深く関わりを持っていた網走刑務所旧建物を保存公開する野外歴史博物館。網走国定公園の景勝天都山網走湖側に位置し、敷地面積は約東京ドーム3.5個分に相当する。ユニバーサルミュージアムを指標に、日々施設充実を目標に地域に根ざした活動を進めている。網走監獄で保存公開をしている網走刑務所の旧建物の多くは、今から100年以上前に作られた木造建築物。文化財をより良い状態で保存していくために協力をもとめている。旧網走刑務所で実際に使用されていた舎房、教誨堂、庁舎を移築した日本唯一の監獄博物館。広い敷地内には、重要文化財が8棟、登録有形文化財が6棟と歴史的価値が高い建築物が点在していた。四人が暮らした部屋が並ぶ「舎房及び中央見張所」は、重要文化財のひとつ。すべての廊下が見渡せるよう中央見張所を中心に、5棟の舎房が放射状に広がる。この形状の木造舎房としては世界最古の建築物で、国内で現存しているのはここだけ。その規模も最大級で、独居房と雑居房を合わせると226房にも。実際に中に入ることができる房もあり、四人が過ごした部屋をリアルに体験することができた。

エスコンフィールド北海道視察について

ES CON FIELD HOKKAIDOは、敷地面積5ha、収容人数は3万5000人。掘り込み式フィールドから地上4階まで観客エリアが広がる。周辺環境との調和を第一に考え、建物中層部にテラスを複数造るなど、地域に溶け込むデザインを採用している。細部にまでこだわった新球場は、日本初の開閉式屋根付き天然芝球場。芝の育成を促すため南側は一面のガラス壁に。みずみずしい草の香や色鮮やかなグリーンを目にすることで、観戦する側にも癒しをもたらされる。五感で心地よさを感じることができる、プレイヤーファーストとファンファーストの両立を目指す球場。

2022年のプロ野球、ベナントレースを盛り上げた北海道日本ハムファイターズ。来季、2023年は本拠地を札幌ドームから、北海道北広島市の新球場「エスコンフィールドHOKKAIDO」に移る。そんな新球場の移転による経済効果（建設費と観客消費額の合計）が、初年度までに約1634億6174万円、雇用創出効果は約1万5334人にもものぼると、関西大学の宮本勝浩名誉教授が試算した。2022年12月14日の発表。今後の10年間でみると、約6788億1740万円にのぼるという。

今回の視察を通して、沖縄の尖閣の問題、沖縄国立自然博物館、スポーツを通しての経済効果など沖縄県議会に生かしていきたいと思います。

沖縄・自民党会派視察 各議員の成果及び所見（北海道） NO4

8	新垣 英貴	根室市役所・第一管区海上保安本部での意見交換。根室市はまちのあちこちで国後島を見ることができました。根室市役所で副市長と議長との面談では、副市長からのご挨拶で根室管轄の歯舞諸島は陸地から1番近いのは那覇から慶良間よりもはるかに近い3.7kmであること。戦後のどさくさでロシアに侵略され択捉島、国後島、色丹島、歯舞諸島からは17,291人の住民が追い出されてしまったとのこと。すでに11世は平均80代となっていること。根室の方々には返還に向けての活動は続けていかなければならない強い思いを持っていること、何よりそのための行動に向けて国も道も市も数億円の予算の確保を行ない様々な事業を行っていること。また、安全な漁業操業のための交渉をしており、その今年の分の安堵が4月21日に最近なされたこと。我々の日頃接する全国や地方のメディア情報ではなかなかわからない地元の声を伺うことができました。今後は沖縄県も尖閣諸島に対する領海侵犯などの課題もあるので、全国的な連携が必要だと感じました。その後は北方領土の領海警備、密漁の摘発、外国船の監視など保安の確保、海難対応など第一管区海上保安本部根室保安部でのレクチャーと意見交換を行いました。 （知床の自然センターの視察）世界自然遺産の管理をどのようにしているのか？実際に斜里町と羅臼町にまたがる知床地域の管理や研究をしている知床財団の事務局長からお話を伺い、実際に知床5湖の周辺をフィールドワークとして巡ってきました。以前は訪ねてきた際に、熊の出没状況で遊歩道が閉鎖されていることもあったようですが、電気が流れて熊が近づかないで安全に見ることができるよう高架の通路ができていました。施設の管理、オーバーツーリズム（オーバーユース）の規制、利用者に対する教育、子どもたちをはじめとする知床や野生動物情報の周知、生態の研究などなど、行う業務は幅広く奥深く、住民や事業者との調整なども行っているようです。課題として公益財団法人としては寄付も集めやすいが利益を出すのは難しく自転車操業であり、そのため新型コロナの感染拡大などで、人の動きが止まった時は、運営継続に課題が出るというお話もありました。沖縄県の西表でも財団を作る動きがあるようです。その参考としていろいろ情報提供もして、協力いただいていることもわかりました。 （北海道庁）朝から北海道庁でコロナ明けの観光政策について北海道の予算は沖縄県の3倍ほどの3兆円前後の金額、人口も3倍以上の520万人余り。観光に対する予算は10年前に5億円程度だったのを20億円前後と引き上げているとのこと。プロモーションを上手にやっているイメージがありますが、意外と少ないと感じました。北海道やはり基幹産業である農業に対する予算が非常に大きい。宿泊税についても質問しましたが、まだ議論が進んでいない印象を受けました。 （過疎対策含めた移住者の受け入れ政策について）人口減少は全国の先駆けてスタートしたようで、移住者の受け入れ政策を丁寧にやっているイメージです。しかし沖縄県是那覇市周辺に集中しているのと同じように、札幌周辺に人口の3分の1以上が住んでいるということもあり、大部分の市町村が過疎地域に指定されている状況もあります。広大な土地を有しているので、今後のエネルギーや交通のインフラ整備も考える都非常に大変だと感じます。今後、メールマガジンやSNSの登録をして、沖縄県の政策の参考になる情報を得たいと思っています。 （北海道遺産協議会）この団体では文化財とも一部重なりますが、古くからある文化や、現代の生活で欠かさない事物を残していく北海道遺産登録の審査や管理、広報などを行っています。沖縄県でも沖縄遺産と言うものを作り、まずはここで沖縄県の物事を県民も知らないことがたくさんあるはずなので、その周知をする、県外の人にも知っていただく機会が増えればよいと感じました。例えば旗頭などもその分野に入るかもしれません。この件についても当局へ問い合わせる予定です。 （エスコンフィールド）運営会社の方に球場内を詳しく説明していただきました。開場前から熱心なファンが並んでいました。球場内にあるホテルや温泉からゲームを観戦することもできます。年間3000万円の部屋や車イスでも観戦しやすい多種多様な利用方法が想定され、実現できていることには驚かされます。球場の中には地ビール工場もあり飲食店もファストフードや地域の有名店・高級店などこちらも様々なニーズに対応できるように充実しています。周辺には1億円を超えるマンションやクボタの試験場、ショッピングモール、子育て施設など、このスタジアムを中心にまちづくりをしているのはさすがに広大な土地をもつ北海道ならではと感じます。沖縄でも沖縄アリーナを含めスポーツでのまちづくりという視点も考えて、研究します。
---	-------	---

充当割合:政務活動:以外が含まれるので案分,

北海道視察 (R5.4/23~4/27) 4泊5日

参加者 ①中 川 京 貴 ②仲 村 家 治 ③石 原 朝 子 ④下 地 康 教

⑤仲 里 全 孝 ⑥島 尻 忠 明 ⑦小渡良太郎 ⑧新垣淑豊(3泊4日)

※24日 ホテルにて夕食代が含まれているので差引く

$$1,759,000 - (@5,000 \times 8 \text{ 名}) = 1,719,000$$

領 収 証		TZ No 029442	
RECEIPT		2023 年 4 月 27 日	
沖縄・自民党 様			
領収金額	¥ 1 7 5 9 千 0 0 0		
上記金額には消費税等 ¥ _____ が含まれています。			
但し、 ☐ 航空券代金 ☐ クーポン券代金 ☐ 団体旅行代金 ☐ 申込金として			
4/23~4/27 旅費 8名分について			
上記正に (現金・クレジットカード・ _____) で領収致しました。			
発行店TEL	0988572222		
発行店	07 営業本部		
発行者	[印]		
 沖縄ツーリスト 株式会社 経理部 沖縄県那覇市松尾 [印]		2 (お客様用)	

$$1,759,000 - 40,000 (\text{食事代}) = 1,719,000$$

旅費代 1,719,000 円

(飛行機/宿泊/車両借上げ含む)

充当割合:政務活動 のみ全額充当

調査研究費

令和 5 年 4 月 25 日

令和 5 年 4 月 25 日

領 収 証

沖縄・自民党

御中

¥44,000.-

但し:4月25日視察対応費として
上記の金額正に領収いたしました。

〒099-4356 北海道斜里郡斜里町大字遠音別村字岩宇別531番地



公益財団法人 知床財団
理事長 村田良介

TEL 0152-24-2114 FAX 0152-24-2115

<http://www.shiretoko.or.jp>

充当割合:政務活動のみ全額充当

調査研究費

土産代

視察先へのお土産(8個)

根室市役所(市長・副市長・担当課長) 北方歴史館(館長) 根室海上保安部
知床自然センター(知床財団)・北海道庁担当部局・北海道遺産事務局・
ファイターズスポーツ

領 収 証

№ 011874

2023年4月17日

ちんすこう本舗

(有)新垣菓

沖縄県自民党

様

担当者名

本 社
〒903-0826 沖縄県那覇市首里寒川町1-81-8
南城市玉城工場・事務所
〒901-0615 沖縄県南城市玉城字堀川698-1
TEL 098-948-3654 FAX 098-948-7834

品 名 ・ 規 格	数 量	単 価	金 額	摘 要
お菓子	8	1490	11920	
送料			800	
値引き			4576	
		消費税		
		合 計	10144	

●上記のとおり領収いたしました。

10,144 円

視察調査報告書

経費区分	調査研究			
年 月 日	令和5年5月18日～20日			
場 所	伊是名 伊平屋			
相 手 方	伊是名村長 村議 伊平屋村長 村議 漁業組合関係者等			
目 的	今回の視察目的は「公共交通」・「医療体制」・「観光施策」・「農林水産業」「物価高騰」・「教育」など、伊是名、伊平屋両村においてそれぞれが抱えている離島の問題課題点についての意見交換 現場視察			
日程概要	月 日(曜日)	時 間	場 所	内 容
	別 紙 参 照			
内容	別 紙 参 照			
成果及び所見	別 紙 参 照			
備 考				

自民党会派・伊是名/伊平屋視察			
日 時	場 所	参 加 者	備 考
5月18日(木)：午前9時30分	今帰仁村運天港集合	会派 9名	
：午前10：30分	運天港発		伊是名港へ
：午前11：30分	伊是名港着		マイクロバス
：午前11：40分	伊是名港内昼食事		
5月18日(木)：午後13：10分 ～ 午後14：10分	伊是名役場で村長・ 役場職員と意見交換		伊是名村役場
：午後14：20分 ～ 午後15：30分	伊是名村現場踏査		マイクロバス
：午後16：10分	民宿チェックイン		なか川館3名 美島3名 まる富1名
：午後5時00分 ～ 午後7時00分	夕食		なか川館
5月19日(金)：午前7：00分	朝食		なか川館12名
：午前9時00分	伊是名港発		渡し船
：午前9時55分	運天港着		
：午前11時00分	運天港発		伊平屋港へ
：午前12時20分	伊平屋港着		マイクロバス
：午前13時00分 ～ 午後2時00分	伊平屋村と意見交換		伊平屋村役場
：午後2時10分 ～ 午後4時20分	伊是名村現場踏査		マイクロバス
5月19日(金)：午後5時00分	民宿チェックイン		松金ホテル
5月19日(金)：午後6時00分 ～ 午後8時00分	夕食		
5月20日(土)：午前7時00分	朝食		松金ホテル
5月20日(土)：午前9時00分	伊平屋発		
：午前10時：20分	運天港着		
5月20日(土)：午前10時：30分	現地で解散式		

1	座波 一	沖縄自民党会派は5月18.19.20日の日程で伊是名、伊平屋島を視察し、現地の首長、職員、議員から直接課題や要望など意見交換を行った。19日の伊平屋村から下記の要望があった。 1.伊平屋空港建設について 2.伊平屋、伊是名間の架橋整備推進について 3.前泊港、野甫港の機能強化及び拡充について 4.県立北部病院伊平屋診療所及び村立歯科診療所の高台移転について 5.訪問看護の移動に関する支援について 6.焼却炉施設の広域化について 7.伊平屋村ふるさと割りの車両の割引について 8.観光客の旅客切符の割引について 9.アカシ海岸整備について 10.ソフト、ハード交付金の増額について 11.離島振興総合センターの建替えについて 12.学校給食費の無償化について 13.離島高校生修学支援事業補助金の上限の増額について 以上の要望を村長及び役場職員から受けました。全て重要かつ喫緊の課題であるが、特に空港と架橋整備に対する熱意が強く、焼却炉の老朽化と広域化への取り組みの必要性を感じました。さらに公共施設の建替え、港の整備は急ぐべき課題です。学校給食費無償化、一括交付金の増額は県全体の課題であるため、県政の取組を促すために、継続して議会で取り上げる事を約束しました。会派沖縄・自民党は政治の原点が離島にあるとの考えから、今後とも離島の声を聞く活動を続けます。
2	仲里全孝	伊是名村との意見交換及び現場踏査 ○教育委員会 - 専門職(ICT支援員、指導主事、ALT等)の住環境の整備について ○建設環境課 仲田港及び運天港の屋根付き荷捌き施設の整備について - 焼却施設の広域化について - 道路整備費の高額配分について ○企画政策課 - 伊平屋・伊是名架橋の早期実現について ○総務課 - 沖縄県消防指令センター全体更新に関する要望について ○住民福祉課 - 沖縄県立北部病院附属伊是名診療所及び医師住宅並びに看護師住宅の早期実現について - 伊是名村率歯科診療所及び医師住宅の住環境整備について - 離島患者等宿泊施設建設について - 伊平屋村との意見交換及び現場踏査 ○伊平屋村建設課 - 伊平屋空港について - 伊是名・伊平屋架橋整備推進について - 前泊港・野甫港の機能強化及び拡充について ○伊平屋村住民課 ・沖縄県立北部病院附属伊平屋診療所及び医師住宅並びに看護師住宅の高台移転について ・訪問看護等の移動に関する支援について ・焼却施設の広域化について ○伊平屋村観光課交通課 ・伊平屋村ふるさと割の車輪の割引について ・観光客の等の旅客切符の割引について ○伊平屋村農林水産課 ・アカシ海岸整備について ○伊平屋村企画課 ・ソフト交付金 ・ハード交付金の増額について ○伊平屋村教育委員会 ・離島振興総合センターの建て替えについて ・学校給食費の無償化について ・沖縄県離島高校生修学支援事業補助金の補助上限の増額について 今回の視察を通して、知事が離島振興なくして沖縄の発展なしというように、離島で抱えている諸問題、交通・物価高騰対策など問題解決を目指して、沖縄県議会に生かしていきたいと思います。
3	仲田弘毅	奥間・名嘉両村長を中心に、役場職員との意見交換会や現場視察等を行ない、より多くの要望・要請事項があった。特に長年の懸案事項である伊平屋・伊是名架橋整備促進や伊平屋空港建設をはじめ、直近の問題として多くの課題等が指摘された。現場主義を考える一人として、離島苦(島チャビ)には心が痛んだ。要望達成に向け、沖縄自民党は一致協力して政策実現に取り組んでいかなければならないと考える。
4	西銘啓史郎	村長や役場の職員と意見交換を行い、その後、島内視察を行った。離島の抱える共通の課題から個別の課題まで多岐にわたる要請も受け、会派としてしっかりと取り組むことを約束。また、島内視察で老朽化した施設の改修や、外国人労働者の人材確保についても現場を視察する事(百聞は一見に如かず)の重要性を再認識。議員団とも意見交換を行い、定期的な訪問の必要性も強く感じた。

5	中川京貴	1 専門職（ICT 支援員 指導主事 ALT等）の住環境の整備について 2 建設環境課 ① 仲田港及び運天港の屋根付き荷捌き施設の整備について ② 焼却施設の広域化について ③ 道路整備の高額配分について 3 企画政策課 ① 伊是名、伊平屋、架橋の早期実現について 4 総務課 ① 沖縄県、消防指令センター全体更新に関する要望について 5 住民福祉課 ① 沖縄県立北部、病院、附属伊是名、診療所及び、医師住宅並びに看護師宅の早期実現について ② 伊是名村立歯科診療所及び、医師住宅の住環境整備について ③ 離島、患者等宿泊施設の建設について 約9項目の要望を受け、沖縄自民党会派として県議会、一般質問、代表質問で問題解決に向けて取り上げていきたい。 特に仲田港及び運天港の屋根付き荷捌き施設の整備については、近々の課題である。 また、焼却炉施設の広域化についても 離島の特殊事情から財源的にも大変厳しい状況にある、 伊是名診療所及び医師住宅並びに看護師住宅の早期実現に向けては、全力で取り組まなければならない。 また、伊平屋村、伊是名村、架橋の早期実現については両村の願いであり、夢の架け橋を実現させなければならない。 伊平屋村からは、13項目の要望があった ① 伊平屋空港建設について ② 伊平屋 伊是名、環境整備の推進について ③ 前泊港能良港の機能強化及び拡充について ④ 沖縄県立北部、病院、附属伊平屋村診療所及び伊平屋、村立、歯科診療所の高台移転について ⑤ 訪問看護等の移動に関する支援について ⑥ 焼却処理、施設の広域化について ⑦ 伊平屋村、故郷割の車両の割引について ⑧ 観光客等の旅客切符の割引について ⑨ アカシ海岸整備について ⑩ ソフト、交付金、ハード交付金の増額について ⑪ 離島振興総合センターの建設について ⑫ 学校、給食費の無償化について ⑬ 沖縄県離島、高校生、就学支援事業補助金の補助上限の増額について 名嘉津夫村長より約13項目の要望を受けた 特に伊平屋診療所や歯科診療所の高台移転等、地元の要望が強く、また港湾整備等離島で暮らす方々の不利性は山積している また、学校給食費の無償化については、1日も早い実現について要望された。我々沖縄自民党会派としても、これまで取り組んできた政策である。なんとしても離島はもちろん、沖縄県すべての子供たちの給食費の無償化を実現させなければならない。 伊是名村 伊平屋村、沖縄自民党会派として視察の結果を県議会において政策実現に向けてへ全力で取り組んでいく。
6	又吉清良	今回の視察で、何度訪れても変わる事のない自然豊かな伊平屋島の魅力がどの様に確立されたのかを改めて理解できました。 その背景には、過去に県内一の下水道施設が完備された行政の実績などがありました。 地球環境問題なども視野にいれ、それを解決する為にも、今一度県内の生活環境を我々は何どの様に取り組んで行くべきか、これからの未来に向けて取り組まさせて頂きます。 又、離島の自然の魅力を中心とした地場産業の育成と発展などの取り組みに対し、県の対応等の弱さは是非改善しなければならない課題である
7	新垣淑豊	伊是名村到着後に村役場において村長、副村長、各課長からヒアリング。 港湾施設整備や道路整備など村内のハード整備に加え、本島側のファミリーハウス（入院・通院時の待機・宿泊施設）の要望、人口減に伴い村の単費での教育環境・また教員などの採用を整える負担も厳しい状況であり、県の支援が必要であると要望を受けた。 その後、車両にて要望に上がった現場を確認し、漁協からは食品加工施設の老朽化などの課題を確認した。 今回の伊是名村の要望は北部の地域性のある課題もあるが、県内離島の多くに重なる事案も多くあり、今後の県内離島視察でも注視し、議会で提案に取り組む。
8	下地康教	今回の伊是名村(国頭郡)の視察は、会派による離島視察の一環として計画されたものであります。 運天港(今帰仁村)をフェリー尚門で出発し、約1時間の船旅にて伊是名・仲田港に到着。その後、伊是名村役場と約1時間の意見交換会に入り、活発な意見交換がなされた。 その中で、教育委員会から「指導主事やALT、ICT等専門職の宿泊施設整備」、建設課からは「仲田港及び運天港荷捌地の軒天整備」と「焼却施設の広域化」や「伊是名・伊平屋架橋整備」、住民福祉課からは「伊是名診療所及び医師住宅、看護師住宅の早期整備実現」や「離島患者等(付添人を含む)宿泊施設建設」などの要望が挙がった。 活発な意見交換の後、バスにて村内現地踏査に向かい、島内の現状をつぶさに視察することができた。 離島のハンディを背負い島に住み続ける島民の苦労を十分に感じ取る事ができた視察であった。 そこで、土木・環境委員に所属する私は、仲田、運天港荷捌地における風雨時の貨物品質の保持と荷捌作業の安全確保のため軒天整備の早期実現を期し、今回の視察を議会活動に活かして行きたい。
9	末松文信	振興センターにおいて、奥間村長はじめ職員、伊是名村議会議長等の皆さんと意見交換を行いました。その中で、道路、港湾、診療所など、インフラ整備を含む要望がありました。 特に、離島患者等の宿泊施設の建設について、新しくできる北部医療センターの近くに整備するよう要望があった。その後、診療所や広域上水道施設、製糖工場、水産加工場など、行政視察を行った。 その中で、老朽化した水産加工場改築の要望があった。また、そこで働く外国人労働者が多く頼りしく思った。視察の結果を県議会に置いて、全力で取り組んでいく

充当割合:政務活動:以外が含まれるので案分

調査研究費

伊是名・伊平屋視察(18日~20日)

参加者:仲里 中川 仲田 西銘 (2泊3日)

淑豊 下地 末松 (18日1泊2日)

座波 又吉 (19日1泊2日)

※伊平屋に渡るには一端運天港に戻る為に運天港→伊是名→運天港→伊平屋→運天港

運天港⇄伊是名往復券購入4人分 (@3,500×4=14,000)

仲里 中川 仲田 西銘

運天港へ戻らず、伊是名から伊平屋までチャーターで移動したため計上せず



運天 ← 伊是名 往復券
領収証

5年5月18日

大人 3,500円 伊是名村北
(消費税含む)

運天発 No.040973



運天 ← 伊是名 往復券
領収証

5年5月18日

大人 3,500円 伊是名村北
(消費税含む)

運天発 No.040967



運天 ← 伊是名 往復券
領収証

5年5月18日

大人 3,500円 伊是名村北
(消費税含む)

運天発 No.040971



運天 ← 伊是名 往復券
領収証

5年5月18日

大人 3,500円 伊是名村北
(消費税含む)

運天発 No.040970

運天港→伊是名船代(4人分)1/2 7,000円

充当割合:政務活動 のみ全額充当

調査研究費

(新垣淑豊・末松文信・下地康教) 1泊 運天港にて離団

OKINAWA IZENA ISLAND
沖縄県・伊是名村

フェリー伊是名尚円

運天 ← 伊是名 往復券
領収証

5年 5月 18日

大人 3,500円 伊是名村北
(消費税含む)

運天発 No.040969

OKINAWA IZENA ISLAND
沖縄県・伊是名村

フェリー伊是名尚円

運天 ← 伊是名 往復券
領収証

5年 5月 18日

大人 3,500円 伊是名村北
(消費税含む)

運天発 No.040968

OKINAWA IZENA ISLAND
沖縄県・伊是名村

フェリー伊是名尚円

運天 ← 伊是名 往復券
領収証

5年 5月 18日

大人 3,500円 伊是名村北
(消費税含む)

運天発 No.040972

運天港 ⇄ 伊是名

往復船代(3人分) 10,500円

環境協力税(7名分) 運天港→伊是名

充当割合:政務活動のみ全額充当

調査研究費

No 022808

領収書(納税義務者用)

環境協力税額 100円

上記金額を領収いたしました。

領収年月日

5 5.18

沖縄県伊是名村長



この税は、伊是名村の環境の美化・保全に使います。たいへん有り難うございました。

No 02280

領収書(納税義務者用)

環境協力税額 100円

上記金額を領収いたしました。

領収年月日

5 5.18

沖縄県伊是名村長



この税は、伊是名村の環境の美化・保全に使います。たいへん有り難うございました。

No 022807

領収書(納税義務者用)

環境協力税額 100円

上記金額を領収いたしました。

領収年月日

5 5.18

沖縄県伊是名村長



この税は、伊是名村の環境の美化・保全に使います。たいへん有り難うございました。

No 022804

領収書(納税義務者用)

環境協力税額 100円

上記金額を領収いたしました。

領収年月日

5 5.18

沖縄県伊是名村長



この税は、伊是名村の環境の美化・保全に使います。たいへん有り難うございました。

No 022805

領収書(納税義務者用)

環境協力税額 100円

上記金額を領収いたしました。

領収年月日

5 5.18

沖縄県伊是名村長



この税は、伊是名村の環境の美化・保全に使います。たいへん有り難うございました。

No 022803

領収書(納税義務者用)

環境協力税額 100円

上記金額を領収いたしました。

領収年月日

5 5.18

沖縄県伊是名村長



この税は、伊是名村の環境の美化・保全に使います。たいへん有り難うございました。

No 022802

領収書(納税義務者用)

環境協力税額 100円

上記金額を領収いたしました。

領収年月日

5 5.18

沖縄県伊是名村長



この税は、伊是名村の環境の美化・保全に使います。たいへん有り難うございました。

7人分協力税(700円)

充当割合:政務活動 のみ全額充当

調査研究費

宿泊者:仲里・中川・仲田・西銘・淑豊・下地(6人分)

領 収 証		No. _____
会 社 沖 縄 自 民 党		R5 年 5 月 18 日
★ 718,000 也		
但	宿泊代と17	
上記正に領収いたしました		
内 訳		
税抜金額		
消費税額等(%)		
〒905-0603 沖縄県伊是名村字仲田177-8		
民 宿 美		
代表者 名 嘉 民		
TEL 0980-50-7111		

領 収 証		No. _____
沖 縄 自 民 党 様		令和 5 年 5 月 19 日
金: 718,000 也		
但し	5/18 御宿泊代金と17	
内 訳(消費税 込・別)		
現 金	(3名分)	
小切手・他		
〒905-0603 沖縄県伊是名村字仲田743-4		
電 話 (0980) 45-2100		
フックス (0980) 45-2375		

宿泊者:末松(1人分)

領収証(控) ^{入金先} 末松文信

様

No. _____

¥5300-

但し宿泊料金として

入金日 2023 年 5 月 19 日

内訳	税率	金額(税抜)
		金額(税抜)
	10%	消費税額等
	税率	金額(税抜)
	%	消費税額等

民宿 まる

〒905-0602 伊豫名村字請尾135番地
TEL/FAX: 0980-45-2666

コクコ ワケ-1007

$$18,000 + 18,000 + 5,300 = 41,300$$

宿泊料(伊是名/7人) 41,300 円

充当割合:政務活動 のみ全額充当

宿泊者/仲里・中川・仲田・西銘・座波・又吉(6名)

領 収 証

沖縄県・自民党様

No. _____

金額

¥35,700

内 訳

現金

小 切 手

手 形

消費税額等(%)

消費税額等(%)

但 二泊泊料 (75,950 × 6名様)

2023年 5月 19日 上記正に領収いたしました

伊平屋村子我喜屋2135-224

松 金 ホ テ

代表者 伊 礼 征 男

TEL(0988)46-2282

FAX(0988)46-2282

登録番号

収入印紙

伊平屋宿泊料 (伊平屋/6人) 35,700 円

充当割合:政務活動 のみ全額充当

調査研究費

伊平屋への移動 伊是名→運天港に戻らずチャーター利用

本来船利用の際 伊是名→運天港船代(往復/3,500→片道 1,750)

$$1,750 \times 4 = 7,000$$

運天港→伊平屋船代 (往復/4,720→片道 2,360)

$$2,360 \times 4 = 9,440$$

$$7,000 + 9,440 = 16,440$$

船利用の際 16,440 円

伊是名→運天港→伊平屋の場合 ひとりあたり 4,110 円

伊是名→伊平屋の場合 ” 3,000 円

チャーター利用 12,000 円 通常移動手段より安価であった

また、天候の件もあり(雨風が強く、早めに移動で伊平屋着)

領収証 沖縄・自民党 様 No. _____

金額 12,000

但 伊は → 伊平屋船代にて
R5年5月19日 上記正に領収いたしました

内 訳
税抜金額
消費税額(%)
税抜金額
消費税額(%)

H・Y・マリン

代表者 比嘉

携帯 090-3410-5621

登録番号 TEL・FAX 0980-45-3903

〒995-0602 沖縄県島尻郡伊是名村字諸見4939-2 GR1422

(伊是名→伊平屋)

チャーター代 12,000 円

充当割合:政務活動 のみ全額充当

調査研究費

乗船者 (座波 一・又吉 清義)

No.036674

OKINAWA
IHEYA ISLAND

運天⇔伊平屋
大人 往復券
領収証

沖縄県・伊平屋村

フェリーいへやⅢ

伊平屋村 観光交通課 伊平屋村 観光交通課

課観伊伊
長光平
之交屋
印通村

¥4,720 (消費税込) 本券の払い戻しは致しません。
但し、大人往復の乗船賃として上記金額正に領収いたしました。

令和 05 年 5 月 19 日 伊平屋村 観光交通課

No.036669

OKINAWA
IHEYA ISLAND

運天⇔伊平屋
大人 往復券
領収証

沖縄県・伊平屋村

フェリーいへやⅢ

伊平屋村 観光交通課 伊平屋村 観光交通課

課観伊伊
長光平
之交屋
印通村

¥4,720 (消費税込) 本券の払い戻しは致しません。
但し、大人往復の乗船賃として上記金額正に領収いたしました。

令和 05 年 5 月 19 日 伊平屋村 観光交通課

運天港⇔伊平屋

往復船代(2 人分) 9,440 円

充当割合:政務活動 のみ全額充当

調査研究費

環境協力税(2名分)(運天港⇄伊平屋)

又 吉 清 義
座 波 一

No 003034

領収証(納税義務者用)

環境協力税額 100円

上記金額を領収いたしました。

領収年月日

05.5.19

沖縄県伊平屋村長



この税は、環境美化・保全及び観光施設の維持整備に使います。
誠に有り難うございました。

No 003028

領収証(納税義務者用)

環境協力税額 100円

上記金額を領収いたしました。

領収年月日

05.5.19

沖縄県伊平屋村長



この税は、環境美化・保全及び観光施設の維持整備に使います。
誠に有り難うございました。

(@100×2=200)

2人分協力税(200円)

環境協力税(4名分)(伊平屋→運天港) 仲里全孝 西銘啓史郎
中川京貴 仲田弘毅

No 036018

領収証(納税義務者用)

環境協力税額 100円

上記金額を領収いたしました。

領収年月日

5.0519

沖縄県伊平屋村長



この税は、環境美化・保全及び観光施設の維持整備に使います。
誠に有り難うございました。

No 036020

領収証(納税義務者用)

環境協力税額 100円

上記金額を領収いたしました。

領収年月日

5.0519

沖縄県伊平屋村長



この税は、環境美化・保全及び観光施設の維持整備に使います。
誠に有り難うございました。

No 036019

領収証(納税義務者用)

環境協力税額 100円

上記金額を領収いたしました。

領収年月日

5.0519

沖縄県伊平屋村長



この税は、環境美化・保全及び観光施設の維持整備に使います。
誠に有り難うございました。

No 036017

領収証(納税義務者用)

環境協力税額 100円

上記金額を領収いたしました。

領収年月日

5.0519

沖縄県伊平屋村長



この税は、環境美化・保全及び観光施設の維持整備に使います。
誠に有り難うございました。

(@100×4=400)

4人分協力税(400円)

充当割合:政務活動 のみ全額充当

調査研究費

仲里全孝 中川京貴 仲田弘毅
又吉清義 座波 一 西銘啓史郎

領収書

毎度ご乗車ありがとうございます
車両番号 5043号
2023年05月19日

乗車料金

¥ 6 6 0 円

立替金

円

上記の通り正に領収致しました。

株式会社風希ネットワーク
沖縄県伊平屋村我喜屋216
電話 0980-46-2373
お忘れ物やご要望がありましたら
上記のTELまでご連絡下さい

伊平屋にて視察中の車両

駐車場代 660円

充当割合:政務活動 のみ全額充当

(伊平屋→運天港) 乗船者:仲里・中川・仲田・西銘

No.003613

OKINAWA
IHEYA ISLAND

伊平屋⇒運天

大人 片路券
領収証



フェリーいへやⅢ

沖縄県民栄 様

¥2,480 (消費税含) 本券の払い戻しは致しません。
但し、大人片路の乗船賃として上記金額正に領収いたしました。

令和 5 年 5 月 20 日

伊平屋村
観光交通課

伊平屋村
観光交通課
伊平屋村
観光交通課

512

OKINAWA
ISLAND

伊平屋⇒運天

大人 片路券
領収証



フェリーいへやⅢ

沖縄県民栄 様

¥2,480 (消費税含) 本券の払い戻しは致しません。
但し、大人片路の乗船賃として上記金額正に領収いたしました。

令和 5 年 5 月 20 日

伊平屋村
観光交通課

伊平屋村
観光交通課

伊平屋村
観光交通課

No.003614

OKINAWA
IHEYA ISLAND

伊平屋⇒運天

大人 片路券
領収証



フェリーいへやⅢ

沖縄県民栄 様

¥2,480 (消費税含) 本券の払い戻しは致しません。
但し、大人片路の乗船賃として上記金額正に領収いたしました。

令和 5 年 5 月 20 日

伊平屋村
観光交通課

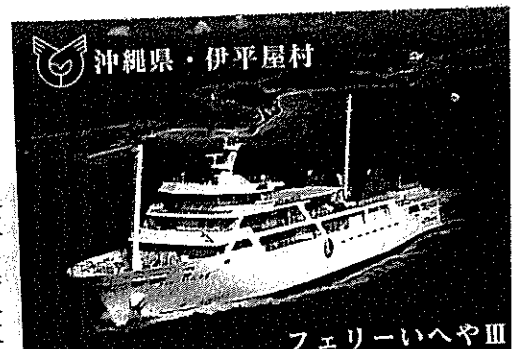
伊平屋村
観光交通課

611

OKINAWA
ISLAND

伊平屋⇒運天

大人 片路券
領収証



フェリーいへやⅢ

沖縄県民栄 様

¥2,480 (消費税含) 本券の払い戻しは致しません。
但し、大人片路の乗船賃として上記金額正に領収いたしました。

令和 5 年 5 月 20 日

伊平屋村
観光交通課

伊平屋村
観光交通課

伊平屋村
観光交通課

伊平屋→運天港

船代 (4 人分) 9,920 円

充当割合:政務活動のみ全額充当

調査研究費

伊是名/伊平屋視察の為 運天港駐車場利用

9名参加(同乗)/車両台数 (4台分)

港に向かう際に、乗り合わせで車台数を減らしたが、1日のみの参加もあり、
那覇・中部・北部からとなり、駐車料は4台分発生(1日700円)

領 収 証

沖縄・自民党様 R5年5月28日

★	¥	700	-																
---	---	-----	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

但

上記正に領収いたしました

内 訳
税抜金額
消費税額等(%)
内 訳
税抜金額
消費税額等(%)

今帰仁村字上運天541番地1
宮 里 駐 車 場
携帯

(1A)

登録番号

GR1022

領 収 証

沖縄・自民党様 R5年5月28日

★	¥	1400	-																
---	---	------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

但

上記正に領収いたしました

内 訳
税抜金額
消費税額等(%)
内 訳
税抜金額
消費税額等(%)

今帰仁村字上運天541番地1
宮 里 駐 車 場
携帯

登録番号

GR1022

(2A同)

9名参加(同乘)/車両台数 (4台分)

冲縄自覚様 R5年5月20日

★ 71400-

GR1022

(2A同)

沖縄自民党様 R5年5月20日

★ ¥1400.-

GA1022

(2A A)

駐車料(4台分) 4,900 円

視察調査報告書

経費区分	調査研究			
年 月 日	令和5年7月18日～21日			
場 所	台北 台中			
相 手 方	宜蘭県政府 KAVARAN 台北日本関係協会 新竹科学工業園区管理局 工業技術研究院 台北市政府環境保護局 台湾琉球協会 中流文化経済協会 県人会/関係者 視察：台中市議会国立自然科学博物館 台湾文学基地 濱江市場油化街 二二八和平公園			
目 的	沖縄県及び台湾との友好・親善 観光・文化 ・経済的発展さてるため意見交換及び現地視察 意見交換テーマ (別紙)			
日程概要	月 日(曜日)	時 間	経済・文化・教育の	内 容
	別 紙 参 照			
内容	別 紙 参 照			
成果及び所見	別 紙 参 照			

(注) 行程は、訪問先との調整の結果、変更の可能性あり。

R 5 沖縄県議会台湾視察 4 日間行程表 (案)

日程	時間	行程	食事
7/18 (火)	7:45 or 9:20 8:15 or 10:00 10:15 発 10:55 着 11:50 発 12:30 着 14:30～15:30 15:50～16:30 18:30～	県議会集合 (貸切バスで空港へ) (エバー航空 113 便利用 7:45 集合、中華航空 121 便利用 9:20 集合) 那覇空港 3F 国際線ターミナル集合 (空港直行者) (エバー航空 113 便利用 8:15 集合、中華航空 121 便利用 10:00 集合) エバー航空 113 便 (機内軽食のみ、到着後空港で各自昼食)、 中華航空 121 便 (機内食有) にて、台北 (桃園空港) へ (約 1 時間 35 分) 桃園国際空港到着、入国手続き後合流、専用車にて宜蘭県へ 高速道路経由で「宜蘭県政府」表敬訪問 (移動約 90 分、表敬約 60 分) Kavalan (カバランウイスキーの蒸留所) 視察 宜蘭から台北へ移動 台北市内レストランにて夕食 宿泊：台北市内ホテルチェックイン	昼食 (自費) 夕食 台北市内泊
7/19 (水)	9:30～11:30 11:45～12:45 14:00～15:00 15:30～17:00 17:30～19:30	ホテル内レストランにて朝食 台北から専用車にて新竹に移動 新竹科学工業園区 (新竹サイエンスパーク) 視察 ＜新竹科学工業園区管理局＞ ＜工業技術研究院 (ITRI)＞ ＜台湾セミコンダクター社 (TSMC)＞ 新竹市内レストランにて昼食 新竹から台北へ移動 (約 2 時間) 台北市政府環境保護局 表敬訪問 (約 1 時間) 台北日本関係協会・台琉協会 表敬訪問 (各約 30 分) 県人会と意見交換及び懇親会 (約 2 時間)	朝食 昼食 夕食 台北市内泊
7/20 (木)	9:30～10:15 10:30～11:30 12:00～13:00 15:30～18:30 19:00～	ホテル内レストランにて朝食 台北から台湾新幹線にて台中市へ移動 (約 1 時間) 台中市議会 表敬訪問 (約 45 分) 国立自然科学博物館 視察 市内レストランにて昼食 台中市から台湾新幹線にて台北市へ移動 (約 1 時間) ★自由行動【台湾文学基地／濱江市場油化街 (卸売市場)／中正紀念堂／二二八和平公園等】 【一部議員は基隆・和平島公園視察 (琉球漁民慰霊碑・ウミンチュの像は撤去済)】 市内レストランにて夕食	朝食 昼食 夕食 台北市内泊
7/21 (金)	4:30 or 6:00 6:45 ～ 9:15 8:05 ～10:40	ホテルチェックアウト・専用車でホテル発桃園空港へ (約 40 分) (エバー航空 112 便利用者 4:30 発、中華航空 120 便利用者 5:30 発) エバー航空 112 便 (桃園空港 6:45 発、那覇 9:15 着)、 中華航空 120 便 (桃園空港 8:05 発、那覇 10:40 着) 那覇空港到着 (飛行時間約 1 時間 45 分) ～～空港で解散～～	朝食 (BOX)

宿泊：台北・漢普頓酒店 ハンプコートパレスタイペイ Hampton Court Palace Taipei (室内広々、ウォシュレット付、日本語 O.K.)

※表示時間は現地時間。台湾と日本で 1 時間の時差があります (台湾が 1 時間遅い)。

充当割合:政務活動のみ全額充当

調査研究費

沖縄台湾友好使節団の意見交換テーマ

1. 宜蘭県

【政府・議会】

- ・鳥インフルエンザへの対応について
- ・漂着ゴミへの取組状況について
- ・DX(digital transformation)の推進に係る取組状況について
- ・台湾と中国の関係について
- ・地震等の災害対策について

2. 台北市政府環境保護局

- ・公園や道路植栽の適正な管理方法について

3. 台中市

【市議会】

- ・鳥インフルエンザへの対応について
- ・漂着ゴミへの取組状況について
- ・DX(digital transformation)の推進に係る取組状況について
- ・台湾と中国の関係について
- ・地震等の災害対策について
- ・台湾のエネルギー事情及び政策、再生可能エネルギーの導入状況について

沖縄・自民党会派視察 各議員の成果及び所見（台湾視察） NO1

1	仲田 弘毅	去る7月18日から21日まで、約4年に一度の8回目となる使節団派遣事業が実施された。1993年10月6日、沖縄県及び台湾間の友好と親善を増進し、経済を発展させることを目的とした「琉中親善沖縄県議会議員連盟」が「沖縄台湾」に名称を改正して、初めての派遣となった。これまで5回の参加で、台湾各地の行政や議会、経済団体との歴史的親交の中で経済・文化・観光等の交流を通して大きな実績があったものと考えています。平成19年の初参加において、台湾からの沖縄観光、約7万9千人台から、コロナ前の91万7千人台への大幅増。あと一点は、約40年前に創設されたという新竹科学園区（サイエンスパーク）についてであります。台湾の科学技術産業をバックアップする国家経済戦略の一つとして企業や研究施設工場が立地しているほか、世界各国の先端科学企業などを誘致していることはまさにグローバル戦略にほかなりません。また、このような中で生まれたTSMC等の半導体製造大企業が熊本県に工場建設中という情報は、我が国にとっても力強いものだと思います。台湾における科学技術産業構築に向けてわが国が見習うべき点が多々あり、今後とも、観光・文化・経済的交流を深め、本県の発展に向けて、協力体制を強化していきたいと考えます。
2	座波 一	沖縄台湾親善友好使節団として沖縄台湾親善沖縄県議会議員連盟の一員として参加した。初日はkavaronウスキーの工場を見学後、台湾日本関係協会との意見交換会に参加した。同協会の蘇会長は台湾政權国民党民進党の幹部として台湾のリーダーとして国内外への人脈があり、特に沖縄県との関係を大切にしていることを強調しており、沖縄からの友好使節団を歓迎していた。二日目に新竹科学園区を視察した。この新竹科学園地区は台湾国家の計画経済の一環として1980年に創設され、現在まで40年間で世界トップの半導体産業のクラスターを形成している。半導体生産に関わる6大産業を集積し全体の売り上げは42兆円の売り上げがあり、同地区内では30万人が就業し、1123世帯が入居している。半導体の製造は受注生産で最終のエンドユーザーを確保するのは国の役割であり、製造した全ての商品を確実に販売するシステムが確立されている。島国の台湾における製造業は物流における不利性が生じて競争力が弱いのが我が国と同じではないかと思いましたが、国家戦略的に国別に必要な半導体を受注生産することで不利性を解消している事は、沖縄県が構造的に抱える離島における製造業の不利性の解決に向けて我が国の国家戦略としての位置付けによる製造業の確立が必要ではないかと感じた。また、企業のスタートアップ、サポート、チャンスと国が厚手（支援）することで若者が安心して起業する環境を作ることは極めて重要であり参考になった。基隆市内の平和島に琉球漁民の碑があるが劣化が激しく地元の市町や有志が再建立に向けた動きがあり、その現場を訪問した。琉球漁民は台湾で漁業技術を伝習しており、地元民はその恩を忘れないためにも再建立が必要で引いては台湾沖縄の交流に取って語り継がなければならない歴史であると認識することができた。沖縄県においても再建立について早急に協力体制を作るべきであると考えます。
3	西銘啓史郎	7月18日～21日まで、沖縄台湾親善沖縄県議会議員連盟のメンバーで4年振りの台湾訪問。この議員連盟は1993年設立され、今年30年を迎えました。初日は、宜蘭県を訪問し、林姿妙知事及び張勝徳県議会議員を教養、意見交換。林知事から与那国や石垣との交流促進について取組んで行きたいとの話も伺いました。そして台北市内へ移動し、台湾日本関係協会の蘇嘉全会長や外交部のスタッフと意見交換会に参加。議員連盟の設立趣旨である、台湾沖縄の議員交流やスポーツ交流も促進していきたいと思います。
4	大浜 一郎	令和5年7月18日より21日の日程にて、沖縄台湾親善友好沖縄県議会議員連盟にて、台湾を訪問いたしました。18日到着後、八重山地域と関係の深い宜蘭県政府、県議会を訪問し関係を深め、その後宜蘭県に本拠地を置き、現在では世界的ブランドに成長した「KABARANI」の工場視察を行い、製造力の強さを見学しました。ブランド名KABARANIは宜蘭県の原住民の族名に由来することをはじめて知りました。その夜は台湾日本関係協会主催との意見交換を行い、蘇会長はじめ多くの方々と台湾と沖縄の関係強化の必要性を確認できました。19日は、台中市政府を教養訪問し、中核都市としての勢いと近代街づくりの説明を受け、その後、国立自然博物館を見学し、台湾の自然文化の大きさを知る良い機会になりました。意見交換には台湾沖縄県人会、中琉文化経済協会、台琉協会の皆様との交流を深める良い機会を得ました。20日は、新竹にある台湾のサイエンスパークにて、産官学による科学技術の蓄積と世界的ネットワークの広さに驚きました。特に科学技術に携わる人材確保、研究者居住地域のインフラを含めた快適さへの工夫は学ぶべきことが多くありました。沖縄がDXの推進を含め、台湾との連携を模索するのなら、そのネットワークの一部を担えることができるのかにかかっていると感じました。沖縄台湾議員連盟は県議会に所属する全議員が参加する協議であり、今回は30名の各派議員が参加し、有意義な訪問日程を過ごすことができました。今後とも、台湾沖縄の関係強化は経済・文化・教育の分野で重要な課題であると再認識しました。会派においても独自のネットワーク構築のために、交流強化の議論を進めていくことができれば有意義であると思っています。
5	小波 良太郎	沖縄台湾親善沖縄県議会議員連盟の交流事業に、今回はじめて参加しました。親日国として有名な台湾ですが、全日程を通して特に沖縄との良好な関係構築を重視している姿勢が強く感じられ、熱心な歓迎には恐縮することも多くありました。初日は宜蘭県政府および議会を教養、続いて今や世界標準を超えたと言っても過言ではない台湾ウスキー・kavaronの工場を視察し、その後台日関係協会主催の意見交換でした。意見交換では「何故台湾が日本との、とりわけ沖縄との友好を協調するか」ということについての答えを垣間見、考えるところの多い一幕でした。2日目は、近年成長著しい台湾の工業の土台ともなっている新竹科学園区および工業技術院を視察し、かつての日本のように近年の経済躍進の原動力となったのは国策による技術への思い切った投資であることを強く感じ、同時にあらためて今の日本に必要な不可欠な姿勢はこれであるということも感じました。また、伝統的に製造業が手薄な沖縄県が一貫して言い続けている「離島ならではの特殊性」という部分については、それらを克服した答えが台湾にあるということを感じました。夜は県人会や県台湾事務所および留学生らとの意見交換。現地の様々な意見を聞くことができ、個人的には「台湾への留学生を増やす」というミッションを持ち帰ることになりました。3日目は、台中市議会を教養した後に基隆を訪れ、損壊した琉球漁民の碑を確認しました。台湾沖縄の交流の歴史の一端を象徴する件の碑については、再建の道筋を考えなければならないと感じました。総論としては、私個人の「沖縄の将来は、台湾と共にある」という見識は決して間違っていないこと、東京だけを見るのではなく台湾との間にある細かな障壁を出来る限り取り除くことが今後の沖縄発展のカギとなることを確信した行程となり、今後は具体策の提言に向けて思考と議論を進めて行きたいと考えます。
6	中川 京貴	令和5年7月18日より21日の日程で4年に1度の沖縄台湾親善沖縄県議会議員連盟使節団派遣事業が実施された。沖縄県及び台湾との友好と親善、観光をとうして経済を発展させる目的として1993年10月今年で30年スタートした事業である。7月18日は、宜蘭県政府議会を教養し、張勝徳県議会議員林姿妙知事と意見交換をした。与那国島や石垣市との、交流促進や沖縄県との関係を大切にしていきたい等、又 19日は、新竹科学園区視察した、新竹科学園地区は、現在までに40年間で世界トップの半導体産業のクラスターを形成している半導体生産に関わる、全体の売り上げは42億円あり同地区内で、約30万人が就職している。又、台湾日本関係協会の蘇嘉全会長や外交部のスタッフとの意見交換に参加し、今後とも台湾・沖縄の関係強化と経済スポーツ文化・観光・教育の必要性を再認識をした。今後とも交流を深め台湾・沖縄県の発展に取り組みたい

7	新垣 新	令和5年7月18日から7月21日迄4年に1度の沖縄台湾親善沖縄県議会議員連盟の30人のメンバーで台湾視察を行いました。この議連は、1993年に創設され、今年で30年の節目を迎え視察先では団長の赤嶺昇議長から先人達が築いた功績を讃え、又、お互いが先人達の感謝を讃え合う。素晴らしいセレモニー挨拶に忘れられない感動と感謝が強く感じました。 令和5年7月18日 一日目 宜蘭県政府や議会を訪問し意見交換と交流を深めました。又、世界的ブランドのウイスキーのKABA LAN工場の視察見学を終え、台湾日本関係協会関係者との意見交換を行い、今後の台湾と沖縄の文化、芸能、スポーツ、経済、子供達の交流を今よりも強い絆で台湾関係協会会長の蘇会長から温かい言葉を頂き強いパイプが繋がった事が確認が取れ良い視察になれたと強く感じました。 令和5年7月19日 二日目 新竹科学園区(台湾版シリコンバレー)を視察を行いました。 新竹科学園区は、台湾が国家戦略として1980年に創設され大規模な半導体産業やITやIoTやバイオや人工知能分野等の6大産業が集積し、4.2兆円の経済効果等や約30万人の雇用で台湾経済を牽する柱と説明を受け驚きを感じました。日本の半導体より台湾がリードしている説明も更に驚きを感じました。台湾の新竹科学園区を参考に沖縄県のアジア戦略構想も台湾新竹科学園区を参考にもう一度未来の沖縄県の強い製造業と雇用創出を考え練り直す必要が今回の台湾視察で強く経済力を学ぶ重要性を感じました。 今後の議会活動に参考に活かして行きたいです。 令和5年7月20日 三日目 台中市議会を参観し、意見交換を行い交流を深める視察でした。最後に台風が多い台湾の街並みは、電柱地中下がかなり進んでいました。沖縄県も電柱の地中下を進めるべきと強く思いました。台湾視察を学び今後の議会や政治活動に活かして取り組んで行きたいです。
---	------	---

台湾視察

令和5年7月18日～21日

充当割合:政務活動のみ全額充当

調査研究費

参加者: 仲田弘毅 中川京貴 座波 一 西銘啓史郎 大浜一郎 新垣 新 小渡良太郎

領 収 証		No 003992
仲田 弘毅 様 2023年07月12日		
金額	¥110,080.-	
但し、令和5年7月18日～21日台湾視察に係る 那覇～台湾間の航空券代、宿泊費、新幹線代として ※上記金額確に、領収致しました。		
	沖縄県知事登録旅行業第2-75号 全国旅行業協会正会員 (株)東亜旅行 〒902-0067 沖縄県那覇市字安里418番地 TEL. 098(885)8855 FAX. 098(887)6999	担当者印 

領 収 証		No 003991
中川 京貴 様 2023年07月12日		
金額	¥110,080.-	
但し、令和5年7月18日～21日台湾視察に係る 那覇～台湾間の航空券代、宿泊費、新幹線代として ※上記金額確に、領収致しました。		
	沖縄県知事登録旅行業第2-75号 全国旅行業協会正会員 (株)東亜旅行 〒902-0067 沖縄県那覇市字安里 TEL. 098(885)8855 FAX. 098(887)6999	担当者印 

台湾視察

令和5年7月18日～21日

参加者: 仲田弘毅 中川京貴 座波 一 西銘啓史郎 大浜一郎 新垣 新 小渡良太郎

領 収 証

№ 003989

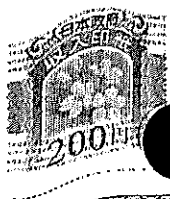
座波 一 様 2023年07月12日

金額 ¥110,080.-

但し、令和5年7月18日～21日台湾視察に係る

那覇～台湾間の航空券代、宿泊費、新幹線代として

※上記金額確に、領収致しました。



沖縄県知事登録旅行業第2-75号 全国旅行業協会保証会員

(株)東亜旅行

〒902-0067 沖縄県那覇市字安里
TEL. 098(885
FAX. 098(887

担当者印



領 収 証

№ 003984

西銘 啓史郎 様 2023年07月12日

金額 ¥110,080

但し、令和5年7月18日～21日台湾視察に係る

那覇～台湾間の航空券代、宿泊費、新幹線代として

※上記金額確に、領収致しました。



沖縄県知事登録旅行業第2-75号 全国旅行業協会保証会員

(株)東亜旅行

〒902-0067 沖縄県那覇市字安里
TEL. 098(88
FAX. 098(88

担当者印



台湾視察

令和5年7月18日～21日

充当割合:政務活動のみ全額充当

調査研究費

参加者: 仲田弘毅 中川京貴 座波 一 西銘啓史郎 大浜一郎 新垣 新 小渡良太郎

領 収 証

No 003986

大 浜 一 郎 様

2023年07月12日

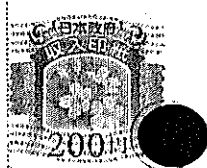
金 額

¥ 110,080.-

但し、令和5年7月18日～21日台湾視察に係る

那覇～台湾間の航空券代、宿泊費、新幹線代として

※上記金額確に、領収致しました。



沖縄県知事登録旅行業第2-75号 全国旅行業協会保証会員

(株)東亜旅行

〒902-0067 沖縄県那覇市字安里
TEL. 098(885)
FAX. 098(887)

担当者印



領 収 証

No 003988

新 垣 新 様

2023年07月12日

金 額

¥ 110,080.-

但し、令和5年7月18日～21日台湾視察に係る

那覇～台湾間の航空券代、宿泊費、新幹線代として

※上記金額確に、領収致しました。



沖縄県知事登録旅行業第2-75号 全国旅行業協会保証会員

(株)東亜旅行

〒902-0067 沖縄県那覇市字安里
TEL. 098(885)
FAX. 098(887)

担当者印



令和5年7月18日～21日

充当割合:政務活動のみ全額充当

調査研究費

台湾視察

参加者: 仲田弘毅 中川京貴 座波 一 西銘啓史郎 大浜一郎 新垣 新 小渡良太郎

領 収 証		№ 003987
小渡 良太郎 様 2023年 07 月 12 日		
金 額	¥ 110,080.-	
但し、令和5年7月18日～21日台湾視察に 係る		
那覇～台湾間の航空券代・宿泊費・新幹線代として		
※上記金額確に、領収致しました。		
	沖縄県知事登録旅行業第2-75号 全国旅行業協会保証会員 (株)東亜旅行 〒902-0067 沖縄県那覇市宇安里 TEL. 098 (885) 1111 FAX. 098 (887) 1111	担当者印 

$$110,080 \times 7 = 770,560$$

台湾視察旅費 (7 名分) 770,560 円

視察調査報告書

経費区分	調査研究			
年 月 日	令和5年8月21日～8月23日			
場 所	南北大東島			
相 手 方	(南大東村) 村長、副村長、議長その他議員、村役場幹部、大東糖業株式会社幹部 (北大東村) 村長、副村長、議長その他議員、村役場幹部、北大東製糖株式会社幹部			
目 的	南北大東島における農地農村整備、港湾・漁港整備その他離島振興に関する調査研究を行う。			
行程概要	月日(曜日)	時 間	場 所	内 容
	別 紙 参 照			
内 容	(南大東島) ・南大東村長他役場幹部、議長等との意見交換(要請事項あり) ・大東糖業幹部との意見交換(働き方改革への対応等について) ・貯水池整備事業、畑地かん水整備事業の進捗状況についての現地調査 ・南大東漁港(南大東地区)、港湾等の台風6号被災状況についての現地調査 (北大東島) ・北大東村長他役場幹部、議長等との意見交換 ・北大東製糖幹部との意見交換(製糖工場老朽化の現状と改修促進等について) ・南大東漁港(北大東地区)、港湾等の台風6号被災状況についての現地調査			
成果及び所見	・南大東村においては、貴重な農業用水を効率的に生かすべく、地中かん水化を促進するとともに、遠隔操作可能なスマート農業の先進事例として他市町村への展開可能性がある。一方で、水源整備率が県内平均を大きく下回っており、貯水池整備を早急に進捗させる必要がある。 ・北大東村においては、特に製糖工場の老朽化が著しく、一刻も早い改修のための財源確保が求められている。また、工場労働における働き方改革の点では、外国人労働者の採用等の企業努力での対応を実施している。 ・両村共通の課題として、島内ブロードバンドネットワークのインフラ整備がなされていないことや、建築コストの高騰による住宅不足など、離島住民の定住条件整備に遅れが生じていることが明らかとなった。 ・さらに、島周辺には良好な漁場が広がっており、漁業振興の点からも、漁港整備が望まれる。			
備 考	議会における代表質問及び一般質問に向けて、議員向けの情報整理、視察・意見交換先のアポ取り・事前調整のほか、訪問先・訪問者への接触・選定、当日の意見交換の進行、など直接補佐を行う必要があったため、会派職員が1名同行した。			

会派 沖縄・自民党 県内（南北大東村）視察 日程（案）

月 日	時 間	日 程	備 考
8月21日	7:00	那覇空港集合	
(月)	8:00	RAC861便にて南大東へ（09:00到着）	
	9:30	南大東村役場 説明会(意見交換)	新垣 利治 村長
	10:30	島内視察（さとうきびほ場）	
	12:00	昼食(ホテル吉里)	
	13:00	島内視察（大東糖業 工場視察	
	14:30	島内視察(漁港等)	
	15:40	意見交換会（村役場・村議会議員）	
	17:00	ホテルチェックイン	
			【宿泊ホテル】
	18:00	夕食	ホテル よしざと
8月22日	9:00	出発（貸し切りバス）	朝食（ホテルにて）
(火)	9:30	島内視察	
	12:00	昼食（大東そば）	
	13:00	現地視察（植物工場、ラム酒工場）	
	14:45	RAC735便にて北大東へ(15:05到着)	
	15:30	北大東村役場 説明会 意見交換	宮城 光正 村長
	17:00	ホテル到着	
	18:00	夕食会	【宿泊ホテル】
			ハマユウ荘
8月23日	9:00	島内視察 出発	朝食（ホテルにて）
(水)		(民俗資料館、北大東製糖、港、陸上養殖等)	
	12:20	昼食	
	13:10	島内視察（月桃加工施設、北大東港）	
	15:35	RAC848便にて那覇空港へ（16:40到着）	
	17:00	那覇空港到着後解散	

南大東村役場 09802-2-2001 (FAX)09802-2-2669

北大東村役場 09802-3-4001 (FAX)09802-3-4406

参加者 仲田 弘毅、座波 一、又吉 清義、西銘 啓史郎、
 (8名) 下地 康教、石原 朝子、新垣 淑豊、

沖縄・自民党会派視察 各議員の成果及び所見（南北大東島視察） NO1

1	仲田弘毅	会派による令和5年度2回目の離島視察が、8月21日から23日まで実施された。県都那覇より360キロ、遠隔の地南北大東両村が絶海の孤島であることを痛感した。両村からは、大まかに次のような要請があった。 ①航空運賃の値上げ処置 ②ほ場とかん水の基盤整備 ③喫緊の老朽化した製糖工場改修工事 ④超高速ブロードバンドの早急な整備 ⑤公営住宅等施設整備⑥医療体制の充実などである。 まさに、島ちゃび(離島苦)そのものである。島嶼県沖縄の物流にかかるコストや通信 インフラの格差などが島民の生活全体に大きく影響を及ぼし、特に離島振興における地理的な構造的な不利性が沖縄振興の核心だと思ふ。 会派として「離島振興無しで、県の発展は無し」「強い沖縄経済」を目指し、党本部と一致協力して、あらゆる振興策を推進すべきだと考える。
2	座波 一	会派沖縄自民党は政調活動で5月の伊是名、伊平屋視察に続いて8月21日から南北大東島を視察を厳しい日程の中、敢行しました。南北大東両村の村長、議会、職員と共に、千ばつや台風6号被害の状況の説明と島の活性化に向けた熱意、そして基幹産業のサトウキビ生産の振興の要望など実に多くの意見交換を交わす事ができました。「まさに百聞は一見に如かず」だ。 基幹産業のサトウキビは、水不足の島で島民が知恵を絞る増産してきた。「畑への水は少量ですむようお土中に引いたパイプで少しづつ流す。点滴と同じ仕組み」工夫を重ね対策してきた島の声に触れた。築60年超が経過した製糖工場の整備など課題も多い。問題解決に全力で取り組む。
3	又吉 清義	大東島においてサトウキビ生産とは、島の経済を支える主軸であるだけでなく、国境を守る責務にも多いに貢献をしている現状も含め、県政の認識を変えなければならないと、今回の政務調査でより深く島の現在の事情を痛感致しました。農家がサトウキビ生産を増やすことは即島の維持と定住に直結することは当然のことです。生産を増やすための一番重要な事柄は如何にサトウキビ畑に灌水が出来るかが大きなポイントです。そのために島一帯で自らの努力、工夫、新規開発にいかに取り組んでいるか、生産者の一つ一つの生の声を伺うことが出来ました。10アール当たりの収穫量は灌水施設がある圃場とない圃場では、施設が整備されている圃場は8.5トン、整備されていない圃場は4.6トン前後と、大きな差が生じている事が判りました。その様な状況の中、水利施設整備事業計画が平成3年度から31年度までに完成する予定で旧東第2地区で取り組まれてきましたが、未だに完成を見ずさらに工期は令和8年度まで延期されその被害額は年間6億3千万の損失と計算されております。県の対応のまずさに改めて痛感し、早急な工事費の予算立が必要である。又 水産業も南大東地区漁港の完成により年々水揚げ量も増える中、船からの荷揚げクレーンが未整備の為、漁民の大きな重労働や、鮮度を保つことが出来ないう要因となっている。今後の水産業の発展に向け早急な整備が必要不可欠である。北大東島におきましても南大東島同様第一次産業にかける意気込み、努力、工夫等は本島内では感じないものを伺えました。サトウキビの増産におきましては、灌水施設の整備以外にも土壌のハンディーを克服するために、サトウキビ生産性向上緊急支援事業を活用し、収穫量向上に向け圃場に堆肥導入取り組みを園、村、生産者で行っております。又 水産業におきましては鮮度を保持したまま出荷できる技術、設備のシステムを拡充することが出来将来に夢がある第一次産業とした発展する中、自ら設置したバオヤ漁場において県外からの窃盗が未だにあり、漁場で漁獲が0の時も多々ある。早急な県の対策が必要である。最後に島の産業の主軸であるサトウキビ生産と不離一帯の製糖工場は、老朽化、耐震震度外状態であり、工場建て替え整備は一日も猶予がない危機的状態である。その様な中これまで、大東村や工場側としては県と幾度となく話し合いや改善策の協議を重ねてきたが一向に進まない状態であるとの県の対応には疑問を感じません、早急に取り組まなければならない事態である。島の発展と定住を目指すためその声を生かし、早急な改善に向け取り組んでいきます。
4	西銘啓史樓	村長、役場職員、議員との意見交換から現場視察と充実した内容でした。両村からの要請も受けしっかりと取り組んでまいります。農業用水の確保は基幹産業(サトウキビ)には不可欠であり、喫緊の課題です。又、生活環境の充実(住宅、診療、教育等)も待ったなし。今回の視察は会派としても「百聞は一見に如かず」現場第一主義で取り組んでまいります。
5	石原 朝子	南北大東村は、県内離島の中でも農水産業を営むには大変厳しい状況にもかかわらず、村民所得も県内でも常に上位にある。今回の現場調査を実施させていただき、南北大東村民をはじめ行政、各種団体の血の滲むような努力の結果であることをあらためて認識させられました。ここに暮らしている村民が、自助努力でできるものは、しっかりと取り組んでいる姿に感銘を受けました。南北大東村の皆さんとの意見交換で住環境施設整備、情報通信整備、医療の充実、老朽化した製糖工場、農業用水確保など多岐にわたり要望がありました。いただいた要望、ご意見につきましては、今後、解決に向けて県議会においても取り組んでいきます。
6	下地康教	今回の南北大東村の視察は、大変有意義なものであった。沖縄本島から約360km離れた絶海の離島である南北大東島の視察は、海底から突き出た特殊な地形が港湾整備を阻み、年間降水量の少ない自然条件が換金作物としてのさとうきび生産に血のにじむ努力を必要とし、沖縄本島から遠く離れた、交通コスト高は島民の暮らしを圧迫するなど、離島のハンディが凝縮された条件のもとで、まさに国境離島に住む人々の厳しい暮らしぶりをつぶさに見ることができた視察であった。特殊な地形から、目の前に広がる深海の厳しい条件を逆手にとり、マグロ漁業に活路を見出し、ヒラメの陸上養殖を手がけるなど、果敢に水産業の振興を推し進め若者たちの定住を図り、さとうきび生産では、効率的な反収増を図るため少ない水を有効利用する点滴灌漑を徹底し、離島であるが故の住宅建築コスト高を公共事業による村営住宅整備により住宅不足の解消を図るなど、涙ぐましい努力を垣間見ることができた。そこで、水不足解消を図るため溜池整備や漁港整備、県営住宅整備など農林水産や公営住宅整備予算の確保を早急に進めるための必要がある。北大東村の製糖工場の老朽化は、柱のコンクリートが剥がれ落ち鉄筋がむき出しになるなど目を覆うものであり、生産性の非効率化の解消を図ることもさることながら、職場環境の安全確保は、早急に解決しなければならない喫緊の課題である。玉城知事を含めた三役は、早急に製糖工場の窮状を把握するための視察を実行すべきである。 今回の視察では、離島であるが故の厳しい条件の下、それぞれの離島によって解決しなければならない課題を様々に抱えていることを痛感した視察であった。これから今回の貴重な視察をもとに、さらに離島の声に耳を傾け、課題解決のため全力で取り組んでいきます。
7	新垣 淑豊	台風被害の確認と普段の生活についての課題の抽出のために、実際に現場を見ながら、お話を聞かせていただきました。2村ともに県内での所得は上位に入りますが、離島の生活は輸送費、移動費、15の春以降の2重生活と費用がかかるため、本島などへ生活の移すことを余儀なくされる方々も多くいらっしゃいます。その課題を克服し、将来に向けてのビジョンを示す振興をそれぞれの島々として作り上げるのが県の役割であると再認識いたしました。離島の振興無しで沖縄の発展無し！ 今後も離島には足を運び、住民との意見交換を重ねて、取り組んで参ります。

充当割合:政務活動のみ全額充当

調査研究費

会派視察 (R5.8.21~23)

南北大東島視察の際お土産

領 収 証

No 012440

2023年 8 月 20 日

ちんすこう本舗
(有)新垣菓

本 社
〒903-0826 沖縄県那覇市首里寒川町1-81-8
南城市玉城工場・事務所
〒901-0615 沖縄県南城市玉城字堀川698-1
TEL 098-948-3654 FAX 098-948-7834

担当者名

沖縄自民党

様

品 名 ・ 規 格	数 量	単 価	金 額	摘 要
小袋 ちんすこう (大)	4	1380	5520	
		消費税	397	
		合 計	5917	

●上記のとおり領収いたしました。

お土産 (茶菓子代) 4 個 5,365 個

充当割合:政務活動、以外が含まれるので案分

調査研究費

タクシー

8月21日 南北視察参加(8名)

① 県議会→那覇空港 (2台)

モノレール利用の際 (@270) $270 \times 4 = 1,080$

1台目 タクシー代(4人乗車) 1,260

モノレール利用より180増なので差し引き計上

タクシー代 1,080円

2/23 タクシー代 1,330

モノレール利用より250増なので差し引き計上

タクシー代 1,080円

領収書

No. 7756

日付 2023年08月21日

車番 0119 0000

基本運賃 ¥1,330円

合計 ¥1,330円

上記の様に領収致しました

消費税率 10%

タクシー御用命(24時間営業)

0120-780-124

那覇第一交通 株式会社

沖縄県那覇市天久1190

TEL 098-868-8680

課税登録番号

T2-3600-0100-5530

現金・クレジットカード・電子決済・その他

領収書

2023年08月23日 -010

メーター運賃 ¥1,260円

運賃料金計 ¥1,260円

合計 ¥1,260円

現金支払 ¥1,260円

無線番号 0080

ご乗車ありがとうございます。

昭和交通(名)

南風原町字新川97-5

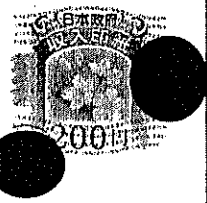
☎ 098-889-7000

充当割合:政務活動のみ全額充当

南北大東島視察 (R5.8.21~23)

参加者 (8名)

- ① 仲田弘毅 ② 座波 一 ③ 西銘 啓史郎 ④ 又吉 清義
⑤ 石原 朝子 ⑥ 下地 康教 ⑦ 新垣 淑豊 ⑧ (職員)

領 収 証		TZ № 042123	
RECEIPT		2023 年 9 月 1 日	
沖縄・自民党 様			
領収金額	¥ 504,000		
上記金額には消費税等が含まれています。			
但し、 ☐ 航空券代金 ☐ クーポン券代金 ☐ 団体旅行代金 ☐ 申込金として			
8/21~8/23 南北大東視察派遣メンバー (8名)			
上記正に (現金・クレジットカード) で領収致しました。			
発行店TEL	0988572222		
発行店	07 営業本部		
発行者			

2 (お客様用)

旅費 504,000 円

視察調査報告書

経費区分	調査研究			
年 月 日	令和5年9月20日～22日			
場 所	①神奈川県横須賀市、②神奈川県秦野市、③東京都港区、④東京都中央区			
相 手 方	①横須賀市長、②ZipInflastructure株式会社、③公益財団法人笹川平和財団、④一般財団法人平和・安全保障研究所			
目 的	新たな交通システム「Zippar」開発拠点視察、南西諸島をめぐる安全保障の現況及び今後の沖縄振興策についての意見交換			
日程概要	月日(曜日)	時 間	場 所	内 容
	別紙参照			
内 容	①上地横須賀市長と、米海軍横須賀基地及び海上自衛隊横須賀分屯地を抱える自治体として、主に地元との良好な関係構築にあたっての手法について意見交換を行った。 ②自走式ロープウェイ「Zippar」について、東南アジアへの展開を見据え、台風や蒸暑地域である沖縄県内でのテストベッドの可能性について、意見交換を行った。 ③笹川財団の角南理事長が内閣府沖縄振興審議会会長であることから、復帰50年を迎えた沖縄の今後の振興策について、意見交換を行った。 ④台中関係の現状や南西諸島における防衛力強化を踏まえ、今後の沖縄地域における安全保障環境について、意見交換を行った。			
成果及び所見	①横須賀市においては、米軍や防衛局との連絡調整を市長自らのリーダーシップで行うほか、20年近くなる専任の補佐職員を配置しており、本県でも有効な方策であると思われる。 ②今後、沖縄市及び豊見城市において、事業展開を考えているとのことであり、地域における2次交通としての活用可能性を見出すことができた。 ③2030年以降の沖縄振興策にあってはカーボンニュートラルや安全保障の観点、地理的構造的不利性に起因する離島振興の継続必要性などを共有することができた。 ④知事が標榜する地域外交の懸念点、対中関係構築の難しさ、沖縄における国際関係研究拠点・人材育成の重要性など幅広い意見交換ができた。			
備 考	9月議会における代表質問及び一般質問に向けて、議員向けの情報整理、視察・意見交換先のアポ取り・事前調整のほか、訪問先・訪問者への接触・選定、当日の意見交換の進行、など直接補佐を行う必要があったため、会派職員が1名同行した。			

沖縄・自民党会派 東京・神奈川視察

日	時	行程	備考
9月20日 水	14:30	県議会出発	タクシー2台で移動
	14:50	那覇空港着	
	15:40	羽田空港へ出発	所要2時間25分
	18:05	羽田空港着	
	19:00	ホテル着	品川近辺
9月21日 木	9:30	横須賀市内へ移動	
	10:50	汐入ターミナル集合	バス、所要1時間30分
	11:00	YOKOSUKA軍港めぐり	所要45分
	12:00	昼食	
	13:00	上地横須賀市長との意見交換	
	14:30	Zippar開発拠点へ移動	バス、所要1時間30分
	16:00	Zippar開発拠点視察・試乗	渋沢
	17:00	ホテルへ移動	バス、所要1時間30分
	18:30	ホテル着	品川近辺
9月22日 金	9:00	笹川平和財団へ移動	タクシー2台で移動
	9:30	角南篤内閣府沖縄振興審議会会長との意見交換	虎ノ門、笹川平和財団
	10:30	平和・安全保障研究所へ移動	タクシー2台で移動
	11:00	平和・安全保障研究所との意見交換	日本橋茅場町
	12:00	昼食	
	15:30	羽田空港着	
	16:25	那覇空港へ出発	所要2時間40分
	19:05	那覇空港着	

神奈川視察(R5. 9月21日～23日)

1	座波 一	沖縄県内の慢性的な交通渋滞の解消と観光客の二次交通システムは喫緊の課題である。公共交通特別委員会でも鉄軌道やフィーダー交通の計画が遅れているが、神奈川・秦野市試験中の都市型自走式ロープウェイzipperを視察した。建設、運営、準備期間などこれまでの大がかりな公共工事を必要としない効率的なシステムは実現性の高さを感じた。県内で検討している自治体もあり、2026年の事業認定に向けた取り組みを注視しながら沖縄県の公共交通システムへの導入を探りたい。 また、沖縄県と同様に米軍基地や自衛隊の基地が多く存在する横須賀市の軍港を観光資源に活用している事例や市長との意見交換を行い、沖縄県が米軍基地や自衛隊と共存できる社会を目指す為に情報を得る事ができた。安全保障や国際情勢の分析と沖縄県の今後の方向性について民間の財団や研究機関との意見交換は時宜を得た取組みとなった。
2	仲村 家治	9月20日～22日の日程で沖縄会派自民党で東京、神奈川に視察に出向きました。今回の目的は平和、安全保障と今後の沖縄振興、次世代の交通のあり方についての意見交換でした。横須賀市に於いて日米の艦艇を見学それから上地横須賀市長と市役所に於いてアメリカ海軍横須賀基地、海上自衛隊司令部について市としての向き合い方についての意見交換のなかで市長さんからは市民の安心安全の為に地域主権者として対応していますがやはり最後はお互いに信頼関係が築かれる事ですとのお話があり、人間関係をしっかりと確立する事の大切さと平和、安全保障研究所では日本の常識では現下の我が国を取り巻く安全保障の環境は厳しいとの意見がありました。笹川平和財団では沖縄振興について角南理事長より沖縄振興費とは別にオールジャパンの中における沖縄でなければ地理的なものも含めてできない提言提案があるのでは？との意見も頂きました。最後に沖縄県の慢性的な交通渋滞緩和の可能性があり低コストで自動運転で走行するZipparに体験搭乗させて頂きました。試験段階ではありますが自動運転で人手不足に悩まされる事も無く経費の面からも期待できなんとしても渋滞緩和に対応できると感じました。今回の視察は主に意見交換でしたがいろいろな方々が沖縄県に強い関心を持って頂いている事に感謝してこれからの沖縄県の振興にいかしてまいります。
3	仲田 弘毅	9月20日から22日にかけて東京・神奈川の視察・意見交換を行ってきた 初日は移動日で、21日の上地(かみち)横須賀市長との意見交換は大変意義深いものがあった。本県同様、米国海軍・自衛隊基地を抱える横須賀市長として海軍トップとの日頃の付き合いを通じ、本音で意見交換ができる関係が構築できていること、そして沖縄にルーツを持つ者として常にふるさと沖縄に注目しているとの話に感銘を受けた。 次に視察した「自走式ロープウェイ・Zippar社」は、本県の慢性的な交通渋滞の解消という点から大いに期待できる事業だとの感想である。神奈川・秦野(はだの)市はベンチャー企業が集積しており、Zipparのようなスタートアップには有利な立地条件になっていると考える。また、最終日の22日には、角南(すなみ)理事長との意見交換会の中で、笹川平和財団や沖縄振興審議会の長として沖縄政策をはじめ米軍基地の跡地利用や離島振興、将来の沖縄県の在り方についてお話を頂いた。最後に「平和・安全保障研究所」では、沖縄県にとって最も必要な世界情勢の分析と安全保障の考え方を拝聴することができた。 今後の議会活動に役立てていきたい。
4	島尻 忠明	9月20日～22日野日程で沖縄会派自民党で東京、神奈川に視察に出向きました。今回の目的は平和、安全保障と今後の沖縄振興、次世代の交通のあり方についての意見交換でした。横須賀市に於いて日米の艦艇を見学それから上地横須賀市長と市役所に於いてアメリカ海軍横須賀基地、海上自衛隊司令部について市としての向き合い方についての意見交換のなかで市長さんからは市民の安心安全の為に地域主権者として対応していますがやはり最後はお互いに信頼関係が築かれる事ですとのお話があり人間関係をしっかりと確立する事の大切さと平和、安全保障研究所では日本の常識では現下の我が国を取り巻く安全保障の環境は厳しいとの意見がありました。笹川平和財団では沖縄振興について角南理事長より沖縄振興費とは別にオールジャパンの中における沖縄でなければ地理的なものも含めてできない提言提案があるのでは？との意見も頂きました。最後に沖縄県の慢性的な交通渋滞緩和の可能性があり低コストで自動運転で走行するZipparに体験搭乗させて頂きました。試験段階ではありますが自動運転で人手不足に悩まされる事も無く経費の面からも期待できなんとしても渋滞緩和に対応できると感じました。今回の視察は主に意見交換でしたがいろいろな方々が沖縄県に強い関心を持って頂いている事に感謝してこれからの沖縄県の振興にいかしてまいります。
5	島袋 大	米国海軍・自衛隊を抱える上地横須賀市長が日頃から意見交換を常に行っているとの聞き、本県においてもやはり対話の大切さを強く思ったところでありました。平和・安全保障研究所や笹川平和財団では沖縄振興や安全保障の意見交換を行いました。やはり、専門の方々の考えは大変勉強になり外から見た沖縄と中から見る沖縄の温度差はかなりあると感じた。最後に交通渋滞緩和とするため自走式ロープウェイZIPPARを体験搭乗。モノレールより建設費や経費の面からも低コストで対応できることは、本県にとってはこれからの大きなポイントになると思った。今後の議会(一般質問・委員会)等で議論を深め実現したい。
6	花城 大輔	1. YOKOSUKA軍港巡り 米軍横須賀基地、海上自衛隊の施設や船舶を目視できるコースを観光船で周遊させ、観光資源として活用した成功例と言える施設だと認識しました。また、隣接する敷地にはショッピングモールが建設されており、地元の市民にも人気があることも確認できました。 2. 上地 横須賀市長との意見交換 市民目線の行政運営で、米軍に対しても国に対しても対等に発言していることを強調されておりました。職員からの信頼も厚い首長であると感じました。 3. Zippar開発拠点視察 新時代の輸送手段として、実証試験中のZipparのコンセプトのレクチャーを受けた後、試乗を行いました。沖縄県内のあらゆる地域で有効に活用できる安全性を大いに感じました。 4. 笹川財団 角南理事長との意見交換 笹川財団内にも沖縄振興調査会があり、その会長も務める角南会長との意見交換を行った。沖縄においても全国的にも問題となっている人材不足や構造的な分野での問題解決等、有意義な時間でありました。 5. 平和・安全保障研究所との意見交換 「沖縄県に於ける政治には合理的な議論がない」冒頭、そのような切り口から本音で議論できた有意義な時間であった。沖縄県内においてもセミナーを開催予定とのことで、今後とも関係性を深めながら見識を深めたいと思いました。 今後の議会活動に役立てていきたい。

充当割合:政務活動 のみ全額充当

調査研究費

領 収 証

No 000102

2023年 9月 19日

(有)新垣菓

本社
〒903-0826 沖縄県那覇市首里寒川1-1-1
南城市玉城工場・事務所
〒901-0615 沖縄県南城市玉城字堀川1698-1
TEL 098-948-3654 FAX 098-948-7834
登録番号: T3360002005215

担当者名

会派 沖縄自民党 様

品 名 ・ 規 格	数 量	単 価	金 額				摘 要
ちいさ (大) 24入	4	1380		5	5	20	
値引				△	5	52	
		消費税			3	97	
		合 計		4	5	365	

●上記のとおり領収いたしました。

お土産 (茶菓子 4 個) 5,365 円

充当割合:政務活動のみ全額充当

調査研究費

領 収 証		TZ No 042137	
RECEIPT		2023 年 9 月 20 日	
沖縄-自民党 様			
領収金額	¥ 847,000		
上記金額には消費税等が含まれています。			
但し、 ☐ 航空券代金 ☐ クーポン券代金 ☐ 団体旅行代金 ☐ 申込金として			
9/20-9/22 神奈川視察 (7名様)(車両代224)			
上記正に(現金・クレジットカード)で領収致しました。			
発行店TEL	0988572222		
発行店	07 営業本部		
発行者			
		沖縄ツーリスト 株式会社	
		経理部 沖縄県那覇市松尾	

期 間 R5.9.20~9/22 (2泊3日)

参加者 ①島袋 大 ②花城 大輔 ③座波 一 ④仲田 弘毅

⑤仲村 家治⑥島尻 忠明 ⑦ (職員)

旅費 (飛行機・ホテル・バス借上げ含む)

旅費 847,000円

充当割合:政務活動のみ全額充当

調査研究費

令和5年9月20日

県議会→那覇空港 (7 名分) 充当額 (2 台分) 1,890 円

1 台目

モノレール乗車 (270×4) =1,080

タクシー利用したので、モノレール代を充当

タクシー賃 1,400-1,080=320 (政務外)

1, 0 8 0 円

2 台目

モノレール乗車 (270×3) =810

タクシー利用したので、モノレール代を充当

タクシー賃 1,400-810=590 (政務外)

8 1 0 円

タクシー利用したが、モノレール利用した際の金額を充当

領収書

領収書

2023 年 09 月 20 日 -013

メーター運賃 ¥1,400 円

運賃料金計 ¥1,400 円

合計 ¥1,400 円

現金支払 ¥1,400 円

無線番号 0006

ご乗車ありがとうございます。

三和交通(株)

沖縄県尻郡南風原町字新川420-6

☎0120-100-084

毎度ご乗車ありがとうございます。

車両番号 41号

2023年09月20日

乗車料金

¥1,400 円

立替金

円

上記の通り正に領収致しました。

(資) 広栄タクシー

沖縄県浦添市西原5丁目8番10号

TEL (098) 879-7877

お忘れ物やご要望がありましたら

上記のTELまでご連絡下さい

充当割合:政務活動のみ全額充当

令和5年9月20日

羽田空港→品川 (7 名分) 充当額 (2 台分) 2,100 円

羽田空港～品川 (3 名分) 900 円

羽田空港～品川 (3 名分) 900 円

羽田空港～品川 (1 名分) 300 円

NO.85018

領収書

羽田空港～品川

金額 ¥900-

NO.65652

領収書

羽田空港～品川

金額 ¥900-

NO.85019

領収書

羽田空港～品川

金額 ¥300-

※課税10%対象 ¥900-

2023年-9月20日

上記金額正に領収いたしました

但し、乗車券 代金として

羽田～品川

羽田空港1・2駅発行 2106
京浜急行電鉄株式会社
登録番号: T2010401009277

※課税10%対象 ¥900-

2023年-9月20日

上記金額正に領収いたしました

但し、乗車券 代金として

(羽田空港1・2駅発行 2106
～品川)

3名分 羽田空港1・2駅発行 2106
京浜急行電鉄株式会社
登録番号: T2010401009277

※課税10%対象 ¥300-

2023年-9月20日

上記金額正に領収いたしました

但し、乗車券 代金として

羽田～品川

羽田空港1・2駅発行 2106
京浜急行電鉄株式会社
登録番号: T2010401009277

充当割合:政務活動 のみ全額充当

調査研究費

令和5年9月22日

ホテル発→笹川平和財団 充当額(7人分) 2,310円

電車利用の場合 品川駅→虎ノ門駅 (@330) /
東京→新橋(150円) 新橋→虎ノ門(180)

$$330 \times 7 = 2,310$$

タクシー利用 (2,700+3,000) - 2,310 = 3,390 (政務外)

タクシー利用したが、電車利用した際の金額を充当

領収書
現・チ・ク・割引 No.1627
日付 '23年09月22日 09:38
車番 100057 000
メータ運賃 ¥2,700円
合計金額 ¥2,700円
上記の通り領収致しました

お忘れ物、お問い合わせは当社です。
栄交通株式会社
TEL 03-3741-6555

領収書
現・チ・ク・割引 No.0002
日付 '23年09月22日
車番 139010 000
メータ運賃 ¥3000円
合計 ¥3000円
上記の通り領収致しました
消費税 10%
帝都三信交通(株)
TEL03-3732-6571
登録番号TB010001199063
GPSコード
395-8645-084A

笹川平和財団→平和保障研究所 充当額(7人分) 1,260円

虎ノ門→茅場町 (@180)

$$180 \times 7 = 1,260$$

タクシー利用 (2,100+1,900) - 1,260 = 2,740 (政務外)

タクシー利用したが、電車利用した際の金額を充当

領収書

2023年09月22日
車番 7758
運賃 1900円
運賃料金計 1900円
合計 1900円

お忘れ物、お問い合わせは当社です。

国産自動車交通(株)

TEL 03 (3394) 3333

領収書

毎度ご乗車ありがとうございます。

車両番号 4447号
2023年09月22日
乗車料金 ¥2100円
小計 ¥2100円
御利用額合計 ¥2100円
消費税 10.0%

(現金・チャット・クレジット)
7-0008
上記の通り正に領収致しました。

登録番号: T1013401005755

《帝都無線》

KEIO 京王自動車株式会社
お忘れ物 お気づきの点は当社へ
目黒営業所 TEL03(3719)6466
タクシーのご利用は帝都無線センター

平和保障研究所→羽田空港 充当額 (7 人分) 4,620 円

茅場町→羽田空港 (660 円)

茅場町→人形町 (290 円)

人形町→泉岳寺→京急鎌田→羽田 (370 円)

$$660 \times 7 = 4,620$$

タクシー利用 (8,650 + 9,250) - 4,620 = 13,280 (政務外)

タクシー利用したが、モノレール利用した際の料金を充当

領収書

原簿に重中記が記入されています

印字番号 657

2023年09月22日

運賃 8000円

運賃料金計 8000円

通行料他 650円

計 8650円

(株)グリーンキャブ江戸川

〒132-0035 江戸川区平井6-2-28

お忘れ物は TEL 03-3617-5231

ご意見・ご要望は

TEL 03-3205-8622

タクシーのご用命は

TEL 03-3203-8181

領収書

現・チ・ク・割引 No.0005

日付 '23年09月22日

車番 139010 800

メ-タ運賃 ¥8200円

迎車料金 ¥300円

E T C 料金 ¥750円

運賃料金計 ¥8500円

通行料他 ¥750円

合計 ¥9250円

上記の通り領収致しました

消費税 10%

帝都三信交通(株)

TEL03-3732-6571

登録番号 T8010001199063

那覇空港→県議会 (4 名分) 充当額 (4 人分) 1,080 円

モノレール利用した場合 (@270 × 4) = 1,080

タクシー賃 1,470 - 1,080 = 390 (政務外)

タクシー利用したが、モノレール利用した際の料金を充当

領収書

No. 4722

日付 2023年 09月 22日

車番 0149 0000

基本運賃 ¥1,470円

合計 ¥1,470円

上記の様に領収致しました

消費税率 10%

タクシー御用命 (24時間営業)

0120-780-124

那覇第一交通 株式会社

沖縄県那覇市天久1190

TEL 098-868-8680

課税登録番号

T2-3600-0100-5530

視察調査報告書

経費区分	調査研究			
年 月 日	令和5年10月25日～26日			
場 所	東京			
相 手 方	三菱重工 エイム株式会社 ジャパンモビリティショー			
目 的	離島における新しい建築技術や交通体系と脱炭素政策及び県内への自動車産業の導入可能性調査			
日程概要	月日(曜日)	時 間	場 所	内 容
	別 紙 参 照			
内容	①沖縄県でのEV車工場の設置可能性調査②東京ビックサイト ②モビリティショー各会場視察 特にEV車の現状の視察 ③EVマイクロ車 トークセッションへの打合せ ④EVマイクロ(沖縄離島専用車)導入の打合せ			
成果及び所見	別 紙 参 照			
備 考				

月日	時間	発着	適用	備考
二〇二三年 十月二十五日				
	12:15	那覇空港発	JL906	
	14:35	羽田空港着		
	15:45	浜松町駅		
	16:00	チサンホテル着		
	16:30		三菱重工との会議	EV車組立工場会議
二〇二三年 十月二十六日				
	7:30	チサンホテル発		
	8:00	ビックサイト着		
	8:30		AIMプレスリリース	
	9:00		Jモビリティショー視察	会場視察
	15:30		EVマイクロトークセッション	事前打ち合わせ
	16:30		EVマイクロトークセッション	
	18:00	ビックサイト発		
	19:00	羽田 着		
	19:55	羽田 発	JL925	
	22:35	那覇空港 着		

成果・所見

今年、1月からエイム株式会社と沖縄県に離島専用EV車導入とその専用車を沖縄の企業で沖縄でつくるといふ、プロジェクトを進めてきた。その第一弾モデル車が完成し、ジャパンモビリティショーへの出展という事でその速さに驚くと同時に完成度の高さには驚愕した。

現在の離島でのガソリン価格は190円台から200円台と高止まりし、沖縄本島とは1リッターあたり、30円ほどの差になっている。低価格のEV車(100万円)程度で購入できると離島は魅力的になる。同時にこの車は、走行距離120キロ程度・時速60キロのスピードは、本島には不向きであり、正に離島専用の車になる。

このプロジェクトのもう一つの目標が、EV車の着脱式電池を使用するのが目的、着脱式の電池は、バイク・耕運機・ボートの船外モーターなどの車外でも使えるようにすることが必要。

同一電池がモビリティショーに出展されることがわかり、その状況も確認するために参加した。

充当割合:政務活動 のみ全額充当

調査研究費

令和5年10月25日～26日
東京視察 (飛行機・宿泊料)

232079465
2023年9月28日

領 収 書

呉屋 宏 様

金額 ¥61,600.-

上記の金額正に領収いたしました。

内訳			※但し、ご旅行代金として
代金	税率	うち消費税	取扱番号: 32222577
ご旅行代金 ¥61,600	10%	¥5,600	出発日 : 2023年10月25日(水)
			発行所 : JAL eトラベルプラザ
			備 考 : クレジットカード・
			その他のお支払い分を含みます

株式会社ジャルパック

〒140-8658 東京都品川区東品川2-4-11 野村不動産天王洲ビル
JALダイナミックパッケージ

登録番号: T7010701014290

旅費 充当額 61,600 円

統一様式-⑧

視察調査報告書

経費区分	調査研究			
年 月 日	令和5年10月25日～26日			
場 所	東京			
相 手 方	大林組技術研究所 国交省 ジャパンモビリティショー出展者等			
目 的	離島における新しい建築技術や交通体系の視察及び意見交換			
日程概要	月日(曜日)	時 間	場 所	内 容
	別 紙 参 照			
内容	①大林組技術研究所「最先端の建築技術等視察・意見交換」 ②国交省レク「日本版Maasenoの概要について」 ③東京ビックサイト 各ブース視察・意見交換等 【過疎地向け公共交通代替自動運転技術導入の取り組みや新たな移動手段に関する自治体の導入実績・取り組み状況】			
成果及び所見	別 紙 参 照			
備 考				

視察日程 R5年10月25日(水)～10月26日(木)

日	時間	行 程	備 考
10/25 (水)	10:15	那覇空港発 羽田 JA1902	
	12:35	羽田空港着	
	13:00	新橋→清瀬	レンタカーにて移動
	15:00	大林組技術研究所 【最先端の建築技術等視察】	
	17:00	研究所出発	
	18:00	ホテル着	相鉄フレッサイн 新橋烏森口
10/26 (木)	10:00	衆議院会館にて 国交省レク 【日本版Maasenoの概要について】	
	12:30	東京ビックサイト	
	15:30	久米島町メディアリリース 【過疎地向け公共交通代替え自動運転技術導入の取り組みや新たな移動手段に関する自治体の導入実績・取組状況について】 各ブースにて視察・意見交換	
	18:00	出発	
	20:00	羽田空港発 ANA479	
	22:25	那覇空港着	

東京視察（令和5年10月25日～26日）

1	石原 朝子	会派視察東京都研修コメント（10月25日～26日実施） 1日目大林組技術研究所においては、施設内の構築物等を見学しながら先進建設・防災・減災技術の取組について説明を受け、技術進歩の状況には目を見張るものがあった。特に「3Dプリンター実証棟」については、住宅確保に悩む小規模離島において安価で安心、安全な住宅確保実現化に向けての一助となるのではないかと考える。本県においても官民連携を図りながら小規模離島においての住宅確保を検討すべきではないか。2日目は、国土交通省が取り組んでいる日本版MaaS概要と活用状況の説明を受ける。バス、鉄道、タクシーなどのモードを超えた移動手段の利用に関する手続き（検索・予約・決済等）を一括して行うことができるサービスとのことである。本県においても入域観光客の急増などに対応するためにも陸・海・空の各交通施設整備や交通ネットワークの整備拡充を図ってきているが、MaaS活用も観光立県としては必須条件ではないか。ジャパンモビリティショーにてドローンや空飛ぶ車、自動運転車両により社会課題解決と地域の活性化に取り組んでいる先進技術を見学。今回、沖縄県の離島地域、リゾート地域の意見を反映して開発された「AIM EV MICRO 01」のプレスリリースに参加する。全長2.5m、全幅1.3mの小さなサイズに大人2名がゆったりと座れ、一充電あたり120kmの航続距離とのこと。当日は「AIM EV MICRO 01」を導入予定している久米島町長、そして製造工場設置予定のうるま市副市長も参加され、安心して乗れ、低価格で購入できるEV車、離島地域で暮らす人々の交通手段、そして観光客集客などの経済効果と災害時におけるバッテリー等の活用に対して大変期待をしているのとのことであった。今回の視察研修を終えて、地域の課題解決を図るためには官民連携の取り組みが大変重要ではあるが、本県においてはなかなかうまく連携が取れていない状況である。今後、議会活動において各事業内容を注視し間いただしていきたい。
2	小渡 良太郎	今回の視察は最先端技術とその利活用に関するものでした。 1日目は大林組の技術研究所に伺い、3Dプリンタを使った建築物その他先進的な技術や資材を見ました。 他国では主に大学が担う土木建築関連の研究開発ですが、日本では地震等の災害が多い関係上ゼネコンも主導的な役割を担っていて、建築基準法の諸事項が時代遅れに感じる程先端技術は様々な難条件をクリアして成立していました。 2日目は「次世代モビリティの活用」をお題として、午前中に議員会館にて国交省から日本版MaaSの概要レク、午後はJapan Mobility Showにて、最先端のモビリティおよびそれを活用した地域課題（主に離島・過疎地）解決に向けた取り組みについて視察およびレク、という日程でした。EVや自動運転といった先端モビリティ技術は、技術そのものの価値だけでなく様々な社会課題の解決に紐付けて開発が進められていて、エイム社が久米島町およびうるま市とタイアップして生産を始めようとしている小型EVにも大きな期待が出来るものであると考える。しかしこれも法律等の基盤整備がなされてはじめて活きるものなので、初日の土木建築分野における最先端技術の活用と併せて、政治がやるべきことを洗い出していきたいと思いました。
3	花城 大輔	<10月25日（水） 株式会社 大林組 技術研究所> ①日本初のZEB（ゼロ・エネルギービル） ・快適に職務に当たることができる環境と、エネルギー消費量すべてを再生可能エネルギーで賄うことのできるオフィスを視察した。オフィス内には、パーソナルスペースを確保できる個室や、ミーティングをしながら職務に当たるスペース、または健康的に職務に当たれるスタンディングデスク等、アイデアに富む工夫がなされていた。 ②世界初の「地震でも揺れない」ビル ・積層ゴムに加えて、アクチュエータ（加力装置）という技術を用い、建物自体を地震の揺れと逆方向に動かすことによって地震の揺れを打ち消す装置を視察、体験しました。 ③3Dプリンター建造物 ・3Dプリンターを用いた鉄筋を利用しない建造物を視察しました。最新の技術を用いることによって、今後の建築物の新たな可能性を感じることができました。 <10月26日（木）国土交通省 総合政策局 レクチャー> ①日本版MaaSの推進について ・バス、タクシー、鉄道、旅客船、旅客機等の移動手段を網羅して、一括して検索、予約、決済ができるサービスが全国で取り組まれている。これにより、 ア 観光地における利便性の向上 イ 公共交通利用による地域交通の維持 ウ 外出機会の創出と地域の活性化 エ CO2排出抑制 等のメリットが期待される。特に観光においては、おひとりさまの観光、団体の観光、あらゆるニーズへの対応が可能になり、島嶼県である沖縄での一日も早い導入が必要であると感じた。

4	新垣 淑豊	9月議会定例会も終わりましたので、次の議会の為にも情報収集と言う事で1泊2日の駆け足となりますが、視察へ行って参りました。離島地域は、資材単価も高い上に、作業員にかかるコストも宿泊等も含め非常に高いと言うお話を、離島視察の際に伺っております。自分たちの住むところも足りないままに、作業員の宿舎も準備せねばなりません。加えて、今後の人口減、人材減と言うことを考えたときには、少しでも省人化した作業を行う必要があります。そんな時に、この3Dプリンターによる建設は効果があるのではないかと思います、実際に見て話を伺いました。まだまだコスト的には、採算が取れる状況では無いようですが、将来的に需要が増えると、そのあたりはカバー出来るようになるのではないのでしょうか。3Dプリンタ以外にも、音響の研究や、地震に対しての研究、地質に関わる実験、遠隔操作での作業を行う実験等も多く取り組みがなされておりました（撮影NG）ので説明案内いただきました地震大国日本、台風も来れば大雨が降る、様々な厳しい気象条件の中で、しっかりと土木建築技術は国の根幹をなすものであると強く感じます。2日目は国土交通副大臣である國場幸之助 衆議院議員事務所への調整依頼をし、国交省からMaaS(Mobility as a Service)についてレクチャーを受けてまいりました。MaaS（マース：Mobility as a Service）とは、地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービスであり、観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となるものです。人口の状況に合わせて、日本全国で様々な取り組みがなされています。その事例についてもお話し頂きました。沖縄県で総合的に、交通からどのように地域の産業につなげていくかを話していかなければ、バラバラなものが出来上がってしまいます。この点についても、今後、交通政策や企業支援をしているかたと横断的に話をしていきたいと思っています。午後は、ジャパンモビリティショー（旧東京モーターショー）視察してまいりました。多くの最新、または未来に向けての移動手段が展示され、非常に興味深くブースを見学してきました。中でも久米島での実証実験を行う予定のAIM（エイム）社のブースには本体100万円、バッテリー50万程度で購入できるEVが展示されておりました。2人乗りですが、フル充電で120kmと十分な距離 離島での交通手段として期待できます。ガソリン価格も高騰しているために、島民の生活改善にも大きく影響を及ぼすのではないかと思います。うるま市で組み立て工場を設置するようです。グリーンスローモビリティ製造のイメイドなども県内自動車製造業の活躍が楽しみです。
---	-------	---

調査研究費

充当割合:政務活動のみ全額充当

令和5年10月25日～26日

沖縄⇄東京(飛行機・ホテル代)

参加者 花城 大輔 新垣 淑豊 石原 朝子 小渡 良太郎

領 収 証

2023年10月20日

沖縄自民党

御中

金額

¥ 3 3 1 , 0 3 0 ※

但し 2023/10/25～10/26 東京行き往復航空代金+宿泊代4名様分として。

上記の金額正に領収いたしました。

Ref.No. 0000184764 予約No. 685124

御注意

1. 手書きのもの並びに金額を訂正したものは無効とします。
2. 社用印、担当者印なきものは無効とします。

観光庁長官登録旅行業 第411号

株式会社 国際旅行

本社

登録番号 T736000100093

〒900-0015

沖縄県那覇市久茂地

3-4-10久茂地YAKA2F

TEL:098-867-2121

FAX:098-861-5133

担当者印

充当額(4人分) 331,030

視察調査報告書

経費区分	調査研究			
年 月 日	R5. 11月20日～24日			
場 所	ベトナム社会主義共和国ハノイ市			
相 手 方	JICAハノイ事務所、JETROハノイ事務所、JNT0ハノイ事務所、ハロン湾管理局、国立ベトナム歴史博物館、国立ベトナム軍事歴史博物館			
目 的	世界自然遺産の環境保全と観光活用の両立に係る先進地例調査(ハロン湾) 独自の歴史に係る研究及び遺跡資料の管理・展示のあり方と観光活用に関する先進地例調査(歴史博物館) 戦争の歴史に特化した博物館の整備のあり方、歴史展示のコンセプトと手法その他に関する県内類似施設との比較調査(軍事歴史博物館) ベトナムの基本情報ならびに政治状況、当該組織の現地での活動状況と沖縄事務所との関わり、ODAの活用状況と沖縄の関わりについて(JICA) ベトナムの基本情報ならびに経済情勢、日系県系企業の進出状況、国産県産品の流通状況等の現状、および当該組織の現地での活動状況について(JETRO) ベトナムの観光情勢ならびに日本との関わり、沖縄への観光誘客等について(JNT0)			
日程概要	月日(曜日)	時 間	場 所	内 容
	別紙参照			
内 容	ハロン湾 ・文化遺産と比して観光活用にハードルがある世界自然遺産について、「どこまで保全してどう活用するか」ということの先進事例を確認する。 ・レストハウス等、観光活用のための関連施設整備のあり方を視察する。 ・環境保全との両立(ハロン湾は近隣に石炭鉱山があり、水質汚染防止や運搬船と観光船の航路調整の問題を抱えている)に向けた取り組みを確認する。 ○国立歴史博物館 ・独自の歴史の研究および展示について、「沖縄の歴史の観光活用」という観点からベトナムでの事例を確認する(博物館施設自体の整備も併せて)。 ・沖縄には現在歴史をテーマにした博物館はなく、今後の整備の可能性について考えるきっかけにする。 ○軍事歴史博物館 ・戦争の歴史について、客観的かつ体系的な視点での各種資料展示、動線と見せ方、説明のあり方、訪れる客層と反応(滞在時間や各種資料への反応など)その他、県内既存の施設と比較して足りない点や加えるべき点を洗い出し、今後の整備のあり方に役立てる。			

沖縄自民党 ベトナム視察行程表 (案)

期間：令和5年11月20日～24日 (4泊5日)

往路：11月20日 沖縄⇒羽田 10:10発 12:25着 (JAL902便) 羽田⇒ハノイ 16:35発 20:30着 (ベトナム航空385便)

復路：11月24日 ハノイ⇒羽田 08:30発 15:05着 (ベトナム航空384便) 羽田⇒沖縄 20:00発 22:50着 (JAL925便)

宿泊先：11月20日～11月23日 ベトナム国ハノイ市内 (未定)

日	時	旅 程	概 要	備 考
初日	8:30	那覇空港集合		
	10:10	JAL902便にて羽田へ		
	12:25	羽田空港着、ハノイ行きに乗り換え	空港内トランジット約4時間強	
	15:10	ベトナム航空385便にてハノイへ		
	20:30	ハノイ・ノイバイ空港着		
	22:00	ホテル着		ハノイ市内
2日目	8:30	ホテル出発		
	9:00	ハノイ市内にてレク	ベトナムの概況・社会情勢等に係るレク	
	10:30	ハロンへ移動		
	12:00	昼食		
	13:00	世界遺産「ハロン湾」視察	環境保全・観光活用の取組視察およびレク	
	17:00	ハロン出発、ハノイへ		
	18:30	ホテル着		
3日目	8:30	ホテル出発		
	9:00	◎ジェトロ・ハノイ事務所	ハノイの経済状況及び日系・県系企業の状況についてレク	
	10:30	◎JICA ベトナム事務所		
	12:00	昼食		
	14:00	県系企業訪問や博物館視察等	企業訪問は1時間程度、博物館視察については国立歴史博物館で2時間程度を予定	
	15:00			
	18:00	ホテル着		
4日目	8:00	ホテル出発		
	9:00	◎シンクタンク(国防) 視察	安全保障関係のレク	
	12:00	昼食		
	13:30	ベトナム軍事歴史博物館視察	戦争関連遺品等の収蔵及び保全、展示のあり方等についての視察およびレク	
	16:00	博物館出発		
	17:00	ホテル着		
5日目	5:30	ホテル発		
	6:00	ハノイ・ノイバイ空港着		
	8:30	ベトナム航空384便にて羽田へ		
	15:05	羽田空港着、沖縄行きに乗り換え	トランジット5時間弱	
	20:00	JAL925便にて沖縄へ		
	22:50	那覇空港着、解散		

沖縄・自民党会派視察 各議員の成果及び所見（ベトナム視察） NO1

1	仲田弘毅	令和5年度、会派の政務海外視察が、去る11月20日から24日までの日程で、ASEAN諸国の一つであるベトナム社会主義共和国において実施された。議員6名のメンバーで4泊5日、短期間ではあったが「百聞は一見にしかず」目を見張るほど、発展したベトナム視察と現地関係者との交流・意見交換は有意義なものとなった。初日は、実に15時間以上を要する移動日であり長旅であった。2日目は、世界自然遺産に登録された「ハロン湾」視察を行った。観光振興と環境保全の観点から「観光立県おきなわ」に活かしていきたいと考える。3日目と4日目は、場所を移し国立博物館と軍事歴史博物館に足を運び、王朝時代をはじめフランス植民地時代、そして第2次世界大戦後の南北戦争等の歴史を改めて学ぶことができた。今後、本県における「琉球の歴史」を後世にどう伝えていくか、県民の一人としてしっかりと対応すべきだと思った。また同じく3日目と最終4日目は、JETROやJICA、JNTOを訪問、レクチャーの中で現状を詳しく知ることができた。奇しくも今年は、日本・ベトナム外交関係樹立から50周年の節目を迎えた記念の年であり、中でも日本とは極めて友好関係にあることが協調された。経済概況について、コロナ禍からの反動で、2022年度最高8.02%のGDP成長率が減速傾向にあり、今年の予想は4.9%に下方修正されたとの報告もあった。しかし、25歳から39歳までの労働人口比率が高く、総人口も1億人に達するなど、伸びしろのある国だと強く感じた。同時に、急速な都市化に伴う環境問題をはじめ、災害・気候変動や貧困の格差是正、高齢化対策への課題等も見えてくる。総じて、社会主義共和国であるベトナムが、このように発展を遂げることができた要因の一つにわが国外務省の政府開発援助ODA(運輸・交通・電力・エネルギー・人材育成等)の力が大きかったことを実感した。開発途上国の安定と繁栄に貢献してきた日本国を誇りにしたいと思う。現下の円安環境を奇貨とした県産品輸出拡大の為の販路開拓を県としても検討すべきである。
2	仲村家治	東南アジアの国々の中で一番訪問したかった国がベトナム社会主義共和国でした。中国やフランスの植民地を経て、また、ベトナム戦争での内乱で苦しんでいた国であり、勤勉さと先手が器用である国民がどのように復興発展しているかを直に触れたかった。那覇空港から羽田空港経由でハノイ・ノイ国際空港に着いたのが、約9時間後でした。那覇空港から台湾・香港経由なら約半分の時間で往ける距離あり、沖縄との交流がより身近になると思います。どうしても、ベトナム戦争のイメージが強かったが、ハノイの市街地の活況を見ると、この国のエネルギーを感じました。また、信号・交通ルールのないようなバイクの走行など、日本では考えられない等々、驚きの連続でした。世界自然遺産の保全と観光資源としての「ハロン湾視察」は、観光関連施設と周遊船を活用した観光はかなり充実しており、沖縄のヤンバルの自然遺産活用と保全は、行政と民間の協力がなくては、成り立たないと感じました。国立歴史博物館を視察した際に感じたのは、事前に勉強しなくても、ベトナムの歴史を学ぶ必要が、展示品の豊富さで視覚的に充実していた。沖縄での歴史的な博物館と自然博物館の設置は観光目的にも必要だし、修学旅行や小中学生の学びの施設設置は必然だし、設置に向けて県議会としても行動すべきだと思う。ハノイの軍事歴史博物館はベトナム独自の歴史上どうしても必要な施設だと感じた。沖縄にも史実に基づいた、軍事歴史博物館は必要だと思います。JETRO・ノイ事務所とJICA事務所とJNTO事務所の訪問で感じたことは、「日本がベトナムを必要とし、ベトナムも日本を必要としている」ことを強く感じ、沖縄は、研修生等の交流が盛んで、沖縄の印象は、ベトナムの方々から気候、食事等親近感を感じているとのことである。一方で愛媛県、福岡県、愛知県、栃木県等の知事自らセールスで訪問し、航空路線や物産展を実現している。沖縄県も知事・経済界・観光業界もセールスでベトナム訪問をすべき。この点は議会で質問したいと思います。
3	島尻忠明	11月20-24日の日程でベトナム・VNに会派視察を行いました。初めての訪問でありこれまでのベトナムの認識とは全く異なり社会主義国でありながら市場経済主義でしっかりとした経済活動には感心致しました。更に他国からの侵略や植民地を乗り越えて建国を成し遂げた国民の固い結束の歴史にも触れるきっかけも軍事歴史館で視察した歴史資料館では今日迄の苦難な歴史が読み取れました。沖縄県も歴史的に見ると同じような時代を生き抜いてきたのではないかと思います。沖縄県でもこのような次の世代に伝えられる施設の必要性も考えさせられました。更にベトナムは若い世代の国民が多く勤勉でもありこれからはASEANの中でも力強い経済力を持つとも言われており日本を筆頭に世界から注目されており沖縄県も少子化対策労働力の確保等これからは交流しながら注視して取り組んでいきたいと思いました。
4	花城大輔	日程1:世界遺産ハロン湾 ・大小2,000の奇岩が突き出し、800以上の船舶が航行する世界遺産のハロン湾内の観光の状況を視察した。観光客を呼び込むためのターミナルをはじめ、湾内航行の際には船舶による背景の販売や、折り返し地点として上陸したアジア最大規模の鍾乳洞視察等、様々な工夫が施されていた。また、湾内で採れる魚介類によるランチの提供等、観光客を満足させるアイデアが様々な形で見受けられた。 11月22日(火) 日程1:JETRO・ハノイ事務所 ・ベトナム内の在留邦人は22,185人(2021年6月時点、ハノイ8,624人、ホーチミン10,768人)で、かなりの数の日本企業が進出していることがわかった。また、日本国内にわたっているベトナム人は約45万人とのことで、日越の関係はかなり親密であることがうかがえる。質疑の中で、「なぜベトナムの若い世代は語学が堪能なのか?」と聞いたところ、「社会主義的教育政策の中でかなり厳しい学生時代を過ごしており、その根本には自国の言語だけでは生きていくのが困難との意識がある」とのことであった。 日程2:JICA・ベトナム事務所 ・JICAは世界97箇所に事務所を持つ中で、ベトナム事務所は5番目に位置しているとのこと。日本人職員はハノイ事務所26名、ホーチミン事務所9名、現地採用職員55名の計90名であるとのことである。その理由として、ベトナムに供与されるODAの約30%は日本から援助されており、日越間の経済関係の緊密化につながることが期待されるからである。ODAの内容としては、①運輸・交通(総延長距離3,309kmの国道整備、287の架橋整備、ハノイ空港と市内を結ぶニョグダン橋、港湾整備、鉄道整備)の分野のみでもかなりのボリュームである。人口一億人を越えたベトナムへの期待を感じさせる内容である。 日程3:国立歴史博物館 ・あらゆる歴史的な展示品が、沖縄に保存されている内容と酷似しており、改めて親近感を感じさせる内容であった。 11月23日(水) 日程1:ベトナム軍事歴史博物館 ・ベトナムが歩んできた様々な国との戦争の歴史、国民同士で戦った戦争の歴史が展示されていた。そのような歴史を経て、現在の発展している現実を見るに、ベトナム国民の苦労や努力といったものは今の国民性の基本になっているのだろうと感じた。 日程2:JNTO(日本政府観光局) ・JNTOの大きな役割としては、ベトナム国民をどれだけ観光客として日本に送り込むかということであった。2023年は日越外交50周年でその関係は良好、北海道フェス等のあらゆるイベントの開催、また、4月には岸田総理、9月には秋篠宮皇嗣同妃殿下がベトナムを公式訪問したこともあり、年間50万人を超えるベトナム人観光客が訪日する過去最高の記録となっている。それでも尚、日本語が堪能なベトナム人の中で訪日経験がない国民が多くあり、今後も更なる発展が期待される。

5	石原 朝子	ベトナムは南北に細長く国土の4分の3が山地、丘陵、台地からなり、気候は北部の亜熱帯から南部の熱帯モンスーンまで変化に富んでいる特性を活かし、ベトナム政府や民間企業とも観光業に力を入れている。今回の視察研修は北部地域にある首都ハノイ、実質3泊5日研修期間となりました。 ハロン湾は1994年にユネスコの世界自然遺産に登録、2000年には登録範囲が拡大された。ハロン湾は、国境一の観光地と同時に国内でも有数の石炭山地であり、国北部の主要な工業開発地域となっているため、ハロン湾近郊で急激な工業化、それに伴う都市の拡大が進み、排水・廃棄物、マングローブの伐採、海域への土砂堆積、無秩序な埋め立てなど環境汚染が深刻であった。そのような状況の中、政府も環境問題にODAの協力を得て取組みながら観光客自身の意識向上や観光関係者への指導を徹底して観光開発と環境保全に取り組んでいる。また「海洋・島嶼の自然資源と環境に関する法律」が2015年成立され、海洋と島嶼の自然資源と環境を持続的に開発・保護し、沿岸と島嶼の管理を継続して行っている。 本県は令和3年7月に「奄美大島、徳之島、沖縄県北部及び西表島」が世界自然遺産登録されています。世界遺産委員会から登録時に要請された4つの事項(①適正な観光利用、②交通事故等による絶滅危惧種への被害防止、③河川再生、④緩衝地帯における森林伐採)についても本県としての管理事業が十分に果たされているか議会の場においても確認していく。 ベトナム国立歴史博物館は、A館、B館と分かれ石器時代から王朝時代、第二次世界大戦や植民地時代、独立を得て現代までの展示となっています。ベトナムの歴史の流れがよく理解できる展示内容であった。また、多くの発掘物や仏像なども室内外に展示されています。博物館施設もベトナム独特な味わい深い施設であり観光客が興味を注ぐ建物であった。本県においても歴史に特化した博物館設置についても検討すべきではないかと感じた。 日本貿易振興機構(ジェトロ)においては、海外事業を展開する日本企業のうち市場の成長性に期待しているとのことで、ベトナムでの事業拡大を検討する企業が26.5%となっている。外国からの直接投資は、現在、韓国、シンガポールに次ぐ3位。件数では韓国に次ぐ2位。日本で働く外国人は急増、ベトナム25%、中国21%、フィリピン11%、ブラジル7%と続くことであった。ベトナム人が変革を大切にし、勤勉でまじめな国民性のため介護職種の技能実習生の受け入れについても積極的に行われているとのことであった。なにより介護職種の技能実習生は、日本で学んで「介護福祉士」になり自国の人のために役に立ちたいと目的意識がはっきりしているとのことでありました。本県においても介護職の不足が生じ、特別養護老人ホーム施設建設がなかなか進まない現状を解決する一助として、また他府県よりはベトナムと気候が似通っている県としてもベトナム介護職種技能実習生の獲得を強化すべきではないかと考える。 日本の対ベトナム援助(ODA)は、経済・社会・環境・教育等広範な分野で支援及び実績を上げているとのことであった。日本の高い技術・ノウハウを活かしたニャッタン橋、北部初の国際大水深港ラックフェン、日越大学開校、海外就労希望者送出プラハホーム構築などである。今年は日越外交関係樹立50周年、今後も日本・本県とベトナムの二国間の経済関係、人的・文化的交流が深まるよう議会活動においても取り組んでいきたい。
6	小渡 良太郎	世界遺産登録にあたって、近隣に石炭鉱山があるという立地上の不利益を払拭するため、水質汚濁防止ならびに水質浄化を一部日本の協力の下で行った取り組み、また観光客や地元住民が出すゴミ等が海に流れないようにする取り組み等の説明を受け、また石炭運搬船と観光フェリーの航路分離やかつての水上生活者(域内既得権益者)の取り扱い、ルールに則った観光開発の工夫など、今後やんばるの自然遺産を適切に管理・活用する方策(ルール作りから施設整備まで)を考える上で貴重な知見を得られた。(ハロン湾) 独自の歴史とそれに培われた独特な文化芸能工芸を有する沖縄だが、それをまとめて見ることの出来る体系的な展示施設は現在存在しない。教育・文化継承・観光活用の観点からも極めて有用な視察整備の必要性は高いと考え、今回を良い機会として類似施設の視察を行ったところ、良好かつ明快な諸知見が得られた。(歴史博物館) 沖縄にも存在する戦争関連の展示施設だが、以前から「戦争被害の部分がグロースアップされ過ぎている」という批判が存在する。「適切な表現方法」を模索するため同趣旨の施設を視察し、県内施設と比較することによって様々なヒントが得られた。(軍事歴史博物館) ベトナムとの国交樹立後、ベトナム戦争からの復興に際して日本の対越ODAがどれだけ役に立ったのか、あらゆる分野・階層での交流の積み重ねが現在の日越関係にどれだけ寄与しているか、ということへの理解と共に、日本で最もベトナムに近い沖縄が今後どう立ち回るべきか?ということを考えるための多くの材料をいただいた。(JICA・JETRO) かつて高度経済成長期の日本がそうだったように、「人口が1億を超え、毎年5%以上の経済性を遂げるベトナムは、近いうちに全国民が余暇を海外で過ごす経済的余裕を持つ」ということをあらためて気付かされ、ベトナムのみならず東南アジア諸国の人々に対して「日本有数の観光地でありながらどこか日本とは違う沖縄」が観光面において今後どうしていけばいいか、様々なヒントがいただいた有意義な意見交換だった。

充当割合:政務活動 のみ全額充当

調査研究費

(茶菓子お土産) 大/5個 小/3個
ベトナム視察 (R5.11/20~24)

領 収 証

No 000966

2023 年 11 月 17 日

(有)新垣菓

本 社
〒903-0826 沖縄県那覇市首里
南城市玉城工場・事務所
〒901-0615 沖縄県南城市玉城字堀川698-1
TEL 098-948-3654 FAX 098-948-7834
登録番号: T3360002005215

担当者名

沖縄・自民党

様

品 名 ・ 規 格	数 量	単 価	金 額	摘 要
茶菓子			7,938	
値引			794	
税率8%(軽減税率)		消費税	571	
		合 計	7,715	

●上記のとおり領収いたしました。

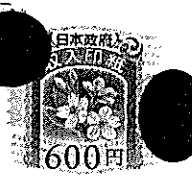
お土産 7,715 円

充当割合:政務活動 のみ全額充当

調査研究費

ベトナム視察 (R5.11.20~24)

参加者 (花城大輔 仲田弘毅 石原朝子 仲村家治 島尻忠明 小渡良太郎)

領 収 証		TZ No 042144	
RECEIPT		2023 年 11 月 30 日	
沖縄・自民党 様			
領収金額	¥ 214,480		
上記金額には消費税等¥ が含まれています。			
但し、 ☐ 航空券代金 ☐ クーポン券代金 ☐ 団体旅行代金 ☐ 申込金として			
1/30-1/31 航空運賃・宿泊費・視察車両(現地代)・通訳費用・手数料 ¥357,480 × 6%			
上記正に (現金・クレジットカード・) で領収致しました。			
発行店TEL	0988572222		
発行店	07 営業本部		
発行者			
		 沖縄ツーリスト 経理部 沖縄県那覇市松尾	

2 (お客様用)

充当額 2,144,880 円

(飛行機・ホテル・車両代・ガイド代 通訳(現地) 手数料含む)

視察調査報告書

経費区分	調査研究			
年 月 日	令和6年2月6日～9日			
場 所	広島 岩国 福岡			
相 手 方	サッカースタジアム関係者 海上自衛隊関係者 ワンヘルス推進室			
目 的	① 先進事例として、国内先端のスポーツ・エンターテインメント複合施設の施設特徴や運用その他を視察する。 ② 他県の自衛隊基地を訪問し、基地の役割や周辺自治体とのかわり等について学ぶ。 ③ 近年注目される「ワンヘルス」に係る事業等について、先進地の事例を調査する。 ④ 他県のスポーツ振興に係る諸事業の概況と、関連する施設整備・運営・利用状況等の実態を調査する。			
日程概要	月日(曜日)	時 間	場 所	内 容
	別 紙 参 照			
内容	別 紙 参 照			
備 考				

自民党会派政務視察日程 to 広島・岩国・福岡

日	時	旅 程	
2月6日	12:00	那覇空港集合	
	13:15	JTA54便にて福岡へ	14:55着
	16:15	のぞみ48号にて広島へ	17:21着
	17:30	ホテル着（グランヴィア広島；南区松原町1-5）	
2月7日	9:30	ホテル発	
	10:00	エディオンピースウィング視察	
	11:30	、スタジアム出発	
	13:00	海上自衛隊呉地方総監部訪問	
	14:00	てつのくじら館視察	
	15:30	大和ミュージアム視察	
	17:30	ミュージアム出発、ホテルへ	
	18:30	ホテル着	広島市内
2月8日	8:30	ホテル発	
	10:00	海上自衛隊岩国基地訪問	
	13:29	こだま847号にて博多へ	14:51着
	15:30	福岡県におけるワンヘルスの取り組みについて	福岡県庁ワンヘルス推進室
	17:30	ホテル着（ホテル日航福岡；博多区博多駅前2-18-25）	
2月9日	9:30	ホテル発	
		福岡県におけるスポーツ振興施策の状況について	アクション福岡
	12:00	福岡空港着	
	13:00	JTA57便にて那覇へ	14:55着
	15:00	解散	

広島・岩国・福岡視察(R6 2.6~2.9)

1	仲村 家治	沖縄・自民党「広島・岩国・福岡」会派視察所感について(R6.2/6~2/9) 那覇市奥武山の旧陸上競技場の建替えは遅々として進まない。サッカーJリーグの公式戦がおこなえるスタジアム建設を沖縄県・那覇市と計画を進めているが、予算等の課題をクリアが出来ずに10年以上の歳月が流れている。 今回の視察では先進事例として、国内先端のスポーツ・エンターテインメント複合施設であります「広島市サッカースタジアム等整備事業」を視察しました。関係者からの概要説明とスタジアムの施設見学を行った。 スタジアム整備は海外の最新設計を導入しており、周りの都市公園整備では、スタジアムと公園広場を環境配慮、ユニバーサルデザインで一体的に計画しスタジアムと広場エリアが連携した賑わいを創出。試合の無い日でもイベント等で賑わいを演出している。 この点は、プロ野球の日本ハムファイターズの本拠地エスコンフィールドを視察際も関係者から同様な話を聞いた。また広島市サッカースタジアムの建設に際しては、全体事業費270.99億円の内訳は国庫補助金80.15億円、寄付金(企業、団体、個人)63億円使用料収入27.1億円、民間資金0.3億円、自治体負担分100.44億円ということで、寄付金かなりの額で、市民の熱い期待を感じます。 奥武山の新スタジアム建設には約150億円以上の建設費が見込まれており、その予算の捻出の予定も立てられていない。沖縄県、那覇市、国との連携なくしては、実現するのは不可能であり、民間等の新たな協力者を見つける必要があると感じた。建設に向けて努力していきます。 航空自衛隊那覇基地、陸上自衛隊那覇駐屯地、海上自衛隊那覇基地を抱える地元小禄出身であります。今回の海上自衛隊「呉地方総監部」「岩国航空基地」の概要説明と視察では、両基地の歴史的な背景等を見ますと、沖縄に展開する海上自衛隊との任務は違いがあります。特に呉基地は艦艇を中心とした機能、岩国基地は、米軍基地の一角を借用しての情報収集等を主な任務としておりました。 南西諸島の展開は国境という環境の中での緊張感を感じた。これからも自衛隊基地の機能等をしっかりと調査研究して議会を通して県民に情報提供していきます。
2	新垣 淑豊	2月6日 出発 移動日 那覇ー福岡ー広島(宿泊) 2月7日 午前中 広島県に新しくできたエディオンピースウイング視察 サンフィレッチェ広島のホームスタジアム視察 中にはキッズルームや、発達障害のお子さんたちを落ち着かせる部屋などもあり、まさに多種多様な方々が楽しめるようなしつらえをあちこちに散りばめた施設であった立地が中心街にあり奥武山公園と似てること、今年開業ということもあり、収支などの状況を確認しながら、まちの賑わい創出を含め奥武山運動公園の整備の参考になるのではないだろうかと感じる。午後 海上自衛隊の呉地方総監部へ表敬訪問及び呉地方隊のレクチャーを受け、港で補修中の護衛艦の見学 呉地方総監部はかなり広域な範囲を担当 呉市は海軍時代からの港町、造船の町と云うこと、基地内の市民の見学も積極的に取り組んでいることもあり住民と互いの理解・協力がなされていた 2月8日木曜日 午前中 岩国へ移動、岩国基地のレクチャーと視察 岩国基地は米軍が主に管理している中で海自が入っていること、滑走路を民間も活用しているのでまさに軍民共用施設となっている しかし、米軍エリアと海上自衛隊エリアの施設の差が大きいと感じる 国防を担う自衛隊に対しての生活環境を整備する予算についてはしっかりと確保が必要だと感じる。議会の米軍への対応も沖縄県の自治体議会とは異なるようですが今回はそこまで踏み込んで話を聞くことができなかったで、今後研究したい。 午後 福岡県議会内で福岡県のワンヘルスについてレクチャーを受ける 県議会議員でもあり、日本獣医師会長の蔵内議員の強いリーダーシップで提案し、県が取り組みをしっかりと進めている。沖縄県はその点の意識が低く、狂犬病ワクチンも全国最低であることから、人獣共通感染症の対策に向けても取り組みを強める必要があり、その点は議会や所属の文教厚生委員会において質疑に活かす 2月9日 午前中 アクション福岡で福岡県のスポーツ施策のレクチャーおよび施設見学 施設で運動機能のデータを集めて「この競技に向いている」と子どもたちに伝えることでトップアスリートになる可能性を高める事業を行っているのは興味深い。奥武山公園など運動公園施設整備に合わせて沖縄県でも取り組みを行いビックデータの集積をすることで沖縄県のスポーツ産業、スポーツツーリズム産業に活かすことができると考える
3	西銘 啓史郎	広島市内のサッカースタジアムは広島県、広島市、商工会、サッカー協会、スポーツ協会が一体となって取り組み、5年間で竣工。 そのスピード感等、沖縄県が学ぶべき点は多い。 奥武山のJリーグ規格スタジアムの建設は遅々として進んでいないのは何故か、代表質問でも聞いて正す。 海上自衛隊呉基地、岩国基地の施設はそれぞれの任務を遂行するために日頃の訓練や地域住民との交流も積極的に行っている。 また岩国空港は米軍、自衛隊、民間航空会社で共同使用しており、セキュリティの厳しさは全国一との事。 沖縄県で米軍基地の整理縮小を求める 玉城知事は、自衛隊も整理縮小を望むのか？ 自衛隊に関する基本的な考えをしっかりと問い正します。
4	島尻 忠明	令和6年2月6日より9日の日程で沖縄自民会派で、広島、岩国、福岡視察致しました。目的のひとつであります国内先端のスポーツエンターテインメント複合施設エディオンピースウイングは国内外を視察し訪れる皆様が安心して楽しめる場所であることを重要視して施設内に配慮がされており時に児童生徒と何らかの事情を抱えて中々多くの人が集まる場所に行けない方でもエンターテインメントが楽しめるような作り方され、更には周辺整備も隣接するアリーナ、公演、幹線道路との導線がしっかりとおりエディオンピースウイングを核として整備されていて施設の費用運営に関しても広島市民、企業が賛同し協賛金として頂き行政と一緒に取り組んでいますとの説明受けました。本県もプロ野球キャンプや各種競技、サッカースタジアムの建設等が整備予定されておりますが中々複合施設としての面積が厳しいところであり私は誰もが楽しめる施設にする為に既存の施設も含めて優しさに配慮した施設作りを提案して行きます。自衛隊基地におきましては地元住民との交流も含め関係構築をしっかりと対応方を求めています。福岡市のワンヘルスの取り組みは昨今のコロナ等これまで無かった伝染病は今までの対応では厳しく自然界を生きた動物、環境、人との調和バランスが崩れて起こっており関係性の再構築が必要であるとのことを情報発信してまいります。
5	島袋 大	広島県にエディオンピースウイング視察サッカー専用スタジアムでサッカーを観戦しながら飲食ブースありキッズルーム、VIPルームなどがありサッカー以外でのスタジアムの中で物産展や展示会なども出来る広々なスペースがありサッカーの試合がなくてもいろいろなイベント対応が出来来る新しいスタイルのサッカースタジアムでした。沖縄県でもサッカースタジアム構想があるが沖縄の産業まつり離島フェアなどイベントが雨風関係なくスタジアムの中で出来るのであれば稼働率はクリア出来るのではないかと県に提案をしていきたい。 岩国では軍民共用施設となっており米軍エリア、海上自衛隊エリア、民間と連携をとり行なっている沖縄県ももっと連携をとり地元住民との交流も含め関係構築を求めていきたい。 福岡では福岡県のスポーツ施設のレクチャーや施設見学をした。スポーツ強化も含め健康管理データなど沖縄県も力を入れて対応策を考えるべきだ。 ワンヘルスの取り組みについては狂犬病ワクチンの話しを伺ったが沖縄県も獣医師の数も少なく狂犬病ワクチン接種も全国ワーストであります。しっかりと県に改善策を求めて行きたい。 視察をとうしてまだ沖縄県がスポーツ観光、健康についてはまだまだやるべきことがまだ沢山あるわけできしっかりと議論して実現に向けて提案して行きたい。

6	花城 大輔	2月6日(火)移動のみ 2月7日(水) ①広島市サッカースタジアム、エディオンピースウイング サッカースタジアムを訪れる様々な人々が、サッカー観戦のみならず、いくつもの選択肢の中で楽しめる設計、施設の運営が企画されていた。特に感心した点は、キッズルームやセンシティブエリア(大衆の中では観戦できない個性を持った児童のための観戦エリア)や車いす観戦エリア、それぞれに一般の観客とは異なる導線を確保していることであった。また、施設に隣接する公園やイベント施設等、様々なイベントが企画される計画がなされていた。3万人集客規模で総工費は約300億円ということであったが、沖縄でもこの規模の施設が計画されるということであれば、大きな夢や希望が盛り込まれることが期待できる。 ②海上自衛隊 呉地方総監部 海上自衛隊の歴史の詰まった呉の今日までの経緯や市民とともに過ごしてきた歴史について学んだ。 ③てつこのくじら館 海上自衛隊の運営する潜水艦の施設を視察した。潜水艦の仕組み、任務について学んだ。 ④大和ミュージアム 呉の基地内で製造された戦艦大和の博物館を視察した。沖縄決戦のために出撃した大和の任務、乗船した兵士の無念、様々な感情が湧き起こる施設であった。 2月8日(木) ①海上自衛隊岩国基地 軍民共用として運営されている岩国錦帯橋空港に隣接する岩国基地は、米軍の運用する特殊な機材がある関係で、特に厳しいルール化で運営されていた。その中にはおきなわから移転が完了したC130の姿もあった。また、海上自衛隊自体も海上で難航できる救難艇を有しており、独特の任務を担っていた。 また、同じ基地内であっても、米軍の住居、娯楽施設等は充実しており、自衛隊の施設は老朽化してが、娯楽施設等は自衛隊も利用できるとのことであった。 ②福岡県議会 福岡県におけるワンヘルスについて学んだ。 人間の健康を維持するためには、人間のみならず、動物の健康や環境の維持を図ることが必要であるというワンヘルスの考え方は今後、全国へ広がっていくであろうことを確信した。 2月9日(金) ①アクション福岡 県の運営する本施設では、県民の健康やスポーツの振興を目的とした多くの利用者であふれていた。 合宿等にも対応できる宿泊施設や食堂をも完備し、本施設にて育成された選手の中にはプロスポーツ選手やオリンピック選手も排出されており、県の取り組み選手育成のモデルになるものと思われた。 那覇市奥武山の旧陸上競技場の建替えは遅々として進まない。サッカーJリーグの公式戦がおこなえるスタジアム建設を沖縄県・那覇市と計画を進めているが、予算等の課題をクリアが出来ずに10年以上の歳月が流れている。 今回の視察では先進事例として、国内先端のスポーツ・エンターテインメント複合施設であります「広島市サッカースタジアム等整備事業」を視察しました。関係者からの概要説明とスタジアムの施設見学を行った。 スタジアム整備は海外の最新設計を導入しており、周りの都市公園整備では、スタジアムと公園広場を環境配慮、ユニバーサルデザインで一体的に計画しスタジアムと広場エリアが連携した賑わいを創出。試合の無い日でもイベント等で賑わいを演出している。 この点は、プロ野球の日本ハムファイターズの本拠地エスコンフィールドを視察際も関係者から同様な話を聞いた。また広島市サッカースタジアムの建設に際しては、全体事業費270.99億円の内訳は国庫補助金80.15億円、寄付金(企業、団体、個人)63億円使用料収入27.1億円、民間資金0.3億円、自治体負担分100.44億円ということで、寄付金がかかなりの額で、市民の熱い期待を感じます。 奥武山の新スタジアム建設には約150億円以上の建設費が見込まれており、その予算の捻出の予定も立てられていない。沖縄県、那覇市、国との連携なくしては、実現するのは不可能であり、民間等の新たな協力者を見つける必要があると感じた。建設に向けて努力していきます。 航空自衛隊那覇基地、陸上自衛隊那覇駐屯地、海上自衛隊那覇基地を抱える地元小禄出身であります。今回の海上自衛隊「呉地方総監部」「岩国航空基地」の概要説明と視察では、両基地の歴史的な背景等を見ますと、沖縄に展開する海上自衛隊との任務の違いがあります。特に呉基地は艦艇を中心とした機能、岩国基地は、米軍基地の一角を借用しての情報収集等を主な任務としておりました。 南西諸島の展開は国境という環境の中での緊張感を感じた。これからも自衛隊基地の機能等をしっかりと調査研究して議会を通して県民に情報提供していきます。
7	仲田弘毅	会派沖縄・自民党は、令和6年2月6日から9日にかけて広島ははじめ山口、福岡の視察研修を実施した。 広島においては海上自衛隊「呉地方総監部」を表敬し、基地の概要と歴史的な背景、そして現在の任務等の説明を受けた。帝国海軍時代からの造船・港町であり、市民と信頼関係を構築し、共にあらゆるイベントを実施しているとのこと、愛される自衛隊活動を展開している旨の説明もあった。 また、山口の岩国基地では、軍民共同使用の空港があり、米軍基地内における我が国の海上自衛隊が、情報収集等任務に就いているとの報告があった。安保体制の中で、入域許可が最も厳しい基地とも言われている。福岡市では、動物や環境、人間が自然界で共に生きるための「ワンヘルス事業」への取り組みについて勉強させて頂いた。 沖縄県も「動物の愛護及び管理に関する条例」が審議されていますが積極的に推進すべきと考える 視察を通して、今後も山積する問題解決の為にしっかりと議論したい
8	末松文信	令和6年2月6日～9日の日程で広島県-山口県岩国市-福岡県を視察してきました。 広島県では、広島市の都市公園の中にコア施設として整備したエディオンピースウイング、サンフレッチェ広島のホームスタジアム及び海上自衛隊岩国基地を視察。エディオンピースウイングは、河川や緑地、桜並木、運動広場、そして幹線道路などと密接に連携して一体的に整備されている。建設費に国庫や県費、市費以外に民間の寄付金があてられていることが大いに参考になった。呉基地は、旧日本軍の海軍基地で戦艦の製造や修繕基地であったため戦時中、集中的に爆撃されたことや街づくりと密接に連携してきた歴史を学びました。その基地が今も自衛隊基地として主要なポジションにあることも分かりました。 2月8日岩国米軍基地の視察は、その昔、普天間飛行場の辺野古移設に伴う類似施設の視察に何った時とは隔世の感がいたしました。当時は、滑走路を1キロメートル沖合に移転するための工事中でありましたが、今は滑走路の移転も完了し、加えて民間空港工事も整備され運用されて利便性も高くなっている。現在、名護市で整備が進められている普天間飛行場代替施設(キャンパスビューパシフィック辺野古飛行場)に民間空港を併設する可能性を示唆するものでした。また、福岡県では、福岡市のワンヘルスの取り組みについてレクチャーを受けたが、全国展開の模相の中、沖縄でも導入できないか早期の検討が必要。 2月9日福岡県のアクション福岡でトップアスリートの育成プロセスや人材育成事業等、レクチャーを受けた。沖縄におけるプロ野球やプロサッカーなど、キャンプ誘致に向けたスポーツツーリズム沖縄での施設整備や制度の創設など、大いに参考になりました。
9	中川 京貴	沖縄自民党会派で令和6年2月6日～9日の日程で広島市 岩国 福岡 視察を行った Jリーグの公式戦が行える、広島市に出来た 約2万人収容出来る エディオンピースウイング サッカースタジアム等 我が沖縄県 那覇市と計画が進められている、スタジアムについては、1日も早い建設の必要性を感じた スタジアムの中には、近代的な設備はもちろん、キッズルームや多種多様な設備が整っていた 又 山口県岩国へ移動して 海上自衛隊岩国基地においては 日々の訓練や地域住民との交流も積極的に行われていた 福岡県福岡市の、ワンヘルスの取り組みについては、人間の健康を維持するためには、動物の健康や環境の維持を図ることが必要である事やコロナ禍等、これまで無かった、伝染病や今までの対応では、解決できないことがわかった

広島・岩国・福岡視察(R6 2.6~2.9)

10	石原 朝子	本県では、平成24年度に「Jリーグ規格スタジアム基本構想」を策定、これまでなかなか事業の動きが見えなかったが、令和5年10月Jリーグ規格スタジアムの整備に向けた民間事業者サウンディング調査実施を行っている。今回、会派視察として国内先端のスポーツ・エンターテインメント複合施設「広島市サッカースタジアム等整備事業」に係る概要説明を受けながら施設見学を行いました。「街なかスタジアムの実現」ということで都市地区の中心に建てられたサッカースタジアムは周辺公園など街との一体感が施され、試合以外にも施設の利用が多機能化で施設活用できるとのことであった。特にユニバーサルデザインを施された施設は、子ども連れの家族などが安心して観戦できるように整備され、感覚過敏の特徴がある子どもたちとその家族が安心して観戦できるセンサリールーム(個室)も国内初となる常設設置がされていた。本県が計画されているJリーグ規格スタジアムの施設整備においてもスポーツ観戦だけではなく広く県民に親しまれ多機能で活用ができる施設整備の実現を望むものではあるが、まずもって施設整備に伴う莫大な予算確保を県の取組を注視し議会の場においても取り上げていきたい。 海上自衛隊「呉地方総監部」「岩国航空基地」を訪問し、関係者より概要説明と基地内の視察見学を行った。呉基地は艦艇を中心とした機能、岩国基地は米軍基地の一角を借用して情報収集などを主な任務とし、沖縄に展開する海上自衛隊との任務の違いがあった。これからも自衛隊基地の機能を調査し、県民に情報提供をしていきます。 ワンヘルスとは「人と動物の健康と環境の健全性」を一つと捉え、これらを一体的に守ろうという考え方で、世界的にその取り組みが進められています。そういう状況の中、令和2年12月、議員提案により全国で初めてとなる「福岡県ワンヘルス推進基本条例」を制定した福岡県においてワンヘルス総合室職員の概要説明等を受けた。新型コロナウイルス感染症における社会の混乱経験を踏まえ、福岡県が現在取り組んでいる「人と動物の健康と健全な環境が調和した社会実現を目指す」ワンヘルス推進事業は、本県においても取り組むべき事業と考えるため議会の場においても取り上げていきます。
11	仲里 全孝	平和記念公園が「平和を祈る場」としたら、平和記念公園の北側の中央公園に位置するサッカースタジアム及び広場エリアは「平和であることを喜び、愉しむ場」として整備を進められ、これまでのサッカースタジアムにない新たな魅力をもつ施設として完成したとのことでした。 なかでも、キッズルームや、感覚過敏を持つ人が安心して観戦できるセンサリールームの設置には感銘を受けた。 また、隣接する公園では3万人規模の集客や地域イベントでも活用され、素晴らしい構想でありました。 総工費約300億円で建設され、沖縄県でも同規模の施設が可能であり、県民へ夢と希望が持てることだと感じました。
12	又吉 清義	2月6日7日8日9日報告書 6日は移動日でした。 7日:広島県(サッカースタジアムの調査) テーマが「街なかスタジアムの実現」で1、開かれた回遊型スタジアムパーク 次に『みんなでつくるサッカースタジアムの実現』で2、スタジアムパークが つなぐ【交歓の環】『最後に広島らしさの発信』で3、みんなのシンボルとなる『希望の翼』 平和都市にふさわしいみんながつながるスタジアムパークの整備計画を調査致しました。 これまでスタジアムとは、スポーツを楽しむことが出来ることが第一条件のテーマであり、ほとんどの施設がそのように整備をされ今まで整備をされてきた沖縄の施設もまさに同様であります。 しかし、今回訪れた広島のサッカースタジアムはこれまで以上のテーマで、夢、遊び、街と一体化した運用形態の施設整備が取り組まれておりました。 サッカースタジアムでJリーグが年間26試合が開催される以外にも施設の利用、活用が多機能型で活用できるこれまでに類を見ない複合型のシステムであり、費用対効果が最大限に生かされ、将来維持管理費で市民が負担に陥らないようこれらの公共施設の在り方の先端を行く整備と運用形態であった。これから沖縄県の整備される公共施設の在り方等は根本的に見直さなければならない。 海上自衛隊呉地方総監部基地内視察にて。 情報交換並びに地域の環境から察して、県内で起きている反対運動や、対立は全く感じられない。その背景には、トップ自ら対話であり、常にお互いに理解を深め地域の行事等支えあいながらこれまで取り組んできた結果の賜物と理解をする。 県内においてこれまで当たり前みたいに取り組んできた対立以前に、これからは如何に理解をするためにどうあるべきかにシフトをするべきではないだろうか。 米軍基地、自衛隊基地等を抱える沖縄県にとっては、他府県よりもより以上にお互いを理解するための環境整備は必要不可欠である。 実際に呉地域には保育園、児童、中学、高校生の見学者が訪れやすい環境であり、対立はほとんど見受けられない。また事件、事故等は論外である。 8日、海上自衛隊岩国基地の視察にて 海を埋め立て、そこに米軍基地が配備をされており、外来機の飛来や、訓練が行われる中、沖縄と比べてはるかに基地被害や騒音被害は少ない。 また、地域住民との対立もほとんど見受けられない、その背景には呉基地と似た環境整備と対立以前の取り組みが伺えた。
13	座波 一	2月7日に視察したエディオンピースウィング市、市、商工会、サッカー協会、スポーツ協会が一体的な取組により短期間で竣工したことに地元の熱意を感じた。さらに市民が親しむ複合施設として従来型のスタジアムを見直し使用目的を柔軟かつ効率性が追求されている。試合がないときは何をやるか?あるいは都市公園法パークPFIによる20年間の貸付方式は安定した管理運営を可能にしている。また施設そのものがランドマークになるような構想で設計されており、今後は広島市を代表する施設としてサッカーファンのみならず全国から注目される施設になると思われた。沖縄県もJ1スタジアム構想があり広島のスタジアムが沖縄の候補地に似たような地形であるため大変参考になると思った。 続いて自衛隊呉地方総監部を訪問しこの地域の自衛隊とのかわり方や歴史を学んだ。沖縄県が防衛力整備に関して県民が理解と行動を示すためにも呉の自衛隊や米軍との共存共栄は参考にするべき出ると痛感した。更に岩国基地では米軍の施設と自衛隊の施設の充実度の落差が大きく衝撃的であった。日米地位協定の問題もあるが我国や沖縄県も自衛隊や防衛力に対し県民の理解は必須である。 福岡市では人と動物の健康を通じて地球環境の保全維持がいかに重要であるかについてのワンヘルスの取組を勉強した沖縄県が推進するSDGSより県民感覚で取り組みやすい施策があり沖縄県も条例化も含め取り組むべきであると感じた。

14	小渡 良太郎	○ピースウィング広島 北海道のエスコンフィールドに引き続き2施設目の競技専用スタジアム視察となったピースウィング広島。 まずは収容人員3万人弱、総工費270億円(周辺整備除く)とも言われるスタジアムを、政令市とはいえ市単独で整備出来る行政力を評価したい。 工費圧縮のため設計・施工一体方式で発注したことは沖縄市の沖縄アリーナと同じだが、ペDESTリアンデッキの整備をはじめ施設単体ではなくひとつのまちづくりとして整備している点、サッカースタジアムとしての稼働以外でも収益を上げられる仕組み作りなど、「整備完了がゴール」ではなく「完成がスタート」となるコンセプトは、沖縄における今後の施設整備にも積極的に取り入れるべき概念であると感じた。 「公共が整備する施設は広く市民に利活用されなければならない」という考え方は決して間違っていないが、「利活用のされ方」には大いに工夫を凝らすべきであり、似たような体育競技施設を各所に林立させるのではなく、スケールはともかくとして当該施設のような施設の整備も今後は手掛けていく必要があるだろう。 海上自衛隊岩国基地 かつて日本海軍最大の拠点であり東洋一の軍港を擁した呉は、基地機能は海上自衛隊が、戦艦大和を建造した工廠機能はIHIが、製鉄所はJFEらが引き継いで、臨海工業都市として発展している。 同様に戦前から日本海軍の一大拠点であった横須賀や佐世保と比べると、「米軍がない」という点で特異である。 今回の視察では基地及び部隊の歴史、概要等のレクチャーと施設見学がメインだったが、旧海軍から引き継いだ建築物群は他の基地ではなかなか見られない重厚な趣きで、歴史に思いを馳せる一幕だった。 南西諸島方面の防備は佐世保の地方隊管轄ではあるものの、いざという時には後方支援を担うということもあって、決して沖縄と縁がないわけじゃないことも今回の視察でわかった。 海上自衛隊岩国基地 岩国錦帯橋空港内(というか米海兵隊の岩国航空基地内に空港と海自基地がある)で非常にセキュリティが厳しく、入るのにも一苦労だった。 海自岩国基地は、海難救助を主任務とする飛行艇部隊、電子戦部隊、訓練の際の標的機を運用する部隊、南極観測船しらせの飛行隊等の基地では見られない特異な部隊が集って、概要説明だけでも興味深い話がたくさんあった。 海兵隊基地には沖縄から移設された輸送機部隊、横須賀所属のロナルド・レーガンの艦載機部隊、最新のF-35部隊が配備されていて、部隊移動の中継地としてもよく利用されているとのことであった。 福岡県 ワンハルスの取り組みについて ワンハルスとは、人の健康・動物の健康・環境の健全性をひとつの健康と捉えて一体的に守る、という考え方であり、一般的には人とペット間の事柄がイメージされるが、人獣共通感染症対策や近年よく話題となる家畜伝染病防止等にも役立つ取り組みである。 かつて沖縄は豚熱の猛威に晒され、1万2千頭余の殺処分と17万頭余へのワクチン接種が行われ、県の養豚業に大きなダメージを与えたが、再発防止についてもワンハルスの考え方と取り組みは役立つものであり、先進的に取り組み始めた福岡県に続いて沖縄でも取り組む必要性を強く感じた。 福岡県 スポーツ振興の取り組み(アクション福岡にて) 世界水泳など国際的な大会を誘致し続ける福岡のスポーツ政策を知るために福岡県立スポーツ科学情報センター(アクション福岡)へ。 施設的にはバブル期整備のため古くなってきていましたが、市民向けの健康増進の取り組みと並行して国際レベルの競技者育成のための強化選抜プログラム、指導者や競技審判養成の取り組み等を継続して展開していて、国際大会誘致は基準を満たした施設整備だけでなくスポーツ人材の育成も重要であることを学んだ。 沖縄でも空手の世界大会誘致や競技者の育成の必要性が語られるが、福岡のような重層的な取り組みは未だ見られず。 もっと真剣に他府県に学ぶ必要があることを痛感した。 総評 会派として今期最後の視察となったが、会派が持ち帰ったものや参加メンバーが広げた知見はとても有意義なものが多かったと感じる。 今後とも他府県の先進例を学び、沖縄への落とし込みを図っていきたいと思う。
----	--------	---

充当割合:政務活動:以外が含まれるので案分

調査研究費

会派視察 (広島・岩国・福岡) R6.2/6~2/9

参加者 (14 人)

ホテルパック (3 泊 4 日) 12 人 (新幹線福岡→広島→博多) (車両代) (食事代) 込み

181,000 × 12 = 2,172,000

(2 泊 3 日) 2 人 (新幹線福岡→広島→博多) (車両代) 込み

138,000 × 2 = 276,000

領 収 証		TZ № 050655	
RECEIPT		2024 年 2 月 5 日	
沖縄・自民党 様			
領収金額	¥ 2 4 4 8 0 0 0		
上記金額には消費税等 ¥ _____ が含まれています。			
但し、 ☐ 航空券代金 ☐ クーポン券代金 ☐ 団体旅行代金 ☐ 申込金として			
2/6-2/9 旅費レター (食料代 ¥184,800 税込) 3/7-7/8 2泊3日 ¥203,000 税込			
上記正に (現金・クレジットカード・ _____) で領収致しました。			
発行店TEL	0988572222		
発行店	07 営業本部		
発行者	_____		
登録番号 T7360001000428			

2,448,000 - 184,800 (食事代) = 2,263,200

充当額 2,263,200 円

(旅費・新幹線代・車両代込み)

調査研究費

充当割合:政務活動 のみ全額充当

会派視察 (広島・岩国・福岡) 3泊4日

お土産(茶菓子) 8個

No 001506

領 収 証

(有)新垣菓

本社
〒903-0826 沖縄県那覇市首里寒川町1-81-8
南城市玉城工場・事務所
〒901-0615 沖縄県南城市玉城字堀川698-1
TEL 098-948-3654 FAX 098-948-7834
登録番号: T3360002005215

2024年2月6日

沖縄自民党

様

担当者名

品 名 ・ 規 格	数 量	単 価	金 額	摘 要
お菓子			1,176.8	5A-24巻x8
個引			8,113.7	
税率8%(軽減税率)		消費税	84.3	
		合 計	11,438	

●上記のとおり領収いたしました。

充当額 11,438 円

2月6日(火曜日)

充当割合:政務活動』以外が含まれるので案分

調査研究費

県議会→那覇空港

タクシー利用(4台)

$1700+1600+1600+1600=6500$

モノレール利用の場合 (@270×14) 3,780円

$6,500-2,720$ (政務外)=3,780

県庁前→空港
領収書

2024年02月06日 -007

タクシー運賃 ¥1,700円

運賃料金計 ¥1,700円

合計 ¥1,700円
(税率10%)

登録番号 T6360001001022

現金支払 ¥1,700円

無線番号 0123

ご乗車ありがとうございます。

三和交通(株)

沖縄県島尻郡南風原町字新川420-6

☎ 0120-100-084

領収書

毎度ご乗車ありがとうございます

車両番号 149号

2024年02月06日

乗車料金

¥1600円

立替金

円

上記の通り正に領収致しました。

(資)ジャイアンツタクシー

沖縄県那覇市国場1084-2-3

TEL (098) 833-3370

登録番号 T6360003000666

消費税率 10%

領収書

2024年02月06日 -013

メーター運賃 ¥1,600円

運賃料金計 ¥1,600円

合計 ¥1,600円
(税率10%)

登録番号 T6360001001022

現金支払 ¥1,600円

無線番号 0204

ご乗車ありがとうございます。

三和交通(株)

沖縄県島尻郡南風原町字新川420-6

☎ 0120-100-084

領収証

車両番号 100号

2024年02月06日

毎度ご乗車ありがとうございます。

(現金・チケット・クーポン・カード)

乗車料金 ¥1600円

運賃料金計 ¥1600円

計 1600円

消費税率 10.0%

登録番号: T8350001015887

沖縄交通グループ

株式会社 東洋交通

沖縄県那覇市客室3-12-8 101号

TEL(098)832-2651 FAX(098)832-2652

Contracted With AAFES

AAFESE

お忘れ物はありませんか?

御利用ありがとうございました。

充当額 3,780円

充当割合: 政務活動 のみ全額充当

2月6日(火曜日)

空港から福岡駅へ @260×14人=3,640

領収書

沖繩 自民党 様

ご利用日付 2024年02月06日

時刻 15時17分

券番号: 8835

取引内容: 乗車券購入 金780円

印紙税法
第5条第2項
非課税

伝票番号: 97833

ご利用ありがとうございます。

福岡空港駅 券B05発行
福岡市地下鉄

領収書

沖繩 自民党 様

ご利用日付 2024年02月06日

時刻 15時17分

券番号: 8832

取引内容: 乗車券購入 金780円

印紙税法
第5条第2項
非課税

伝票番号: 97832

ご利用ありがとうございます。

福岡空港駅 券B05発行
福岡市地下鉄

領収書

沖繩 自民党 様

ご利用日付 2024年02月06日

時刻 15時16分

券番号: 8829

取引内容: 乗車券購入 金780円

印紙税法
第5条第2項
非課税

伝票番号: 97831

ご利用ありがとうございます。

福岡空港駅 券B05発行
福岡市地下鉄

領収書

沖繩 自民党 様

ご利用日付 2024年02月06日

時刻 15時18分

券番号: 8838

取引内容: 乗車券購入 金780円

印紙税法
第5条第2項
非課税

伝票番号: 97834

ご利用ありがとうございます。

福岡空港駅 券B05発行
福岡市地下鉄

領収書

沖繩 自民党 様

ご利用日付 2024年02月06日

時刻 15時18分

券番号: 8841

取引内容: 乗車券購入 金520円

印紙税法
第5条第2項
非課税

伝票番号: 97835

ご利用ありがとうございます。

福岡空港駅 券B05発行
福岡市地下鉄

乗車券代(地下鉄) 3,640円

寄附割合:政務活動のみ全額充当

調査研究費

2月7日(水曜日)

大和ミュージアム入場料

@500×14=7,000



2024年 2月 7日(水) 15時29分
レシート№9984

領収証

2061010000013

常設 一般

単500 14点 内 ¥7,000

小計 ¥7,000

10%内税対象額 ¥7,000

(10%消費税等内税 ¥636)

合計 ¥7,000

(内消費税等 ¥636)

現金 ¥7,000



a00039984000007000a

事業者番号 T8010501050089

レシート№.3 14点買 費9999

充当額 7,000 円

宛当割合:政務活動のみ全額充当

調査研究費

宿泊税 (2/9)

① 島袋 ②座波 ③花城 ④仲田 ⑤末松 ⑥中川

⑦ 又吉 ⑧西銘 ⑨石原 ⑩島尻 ⑪淑豊 ⑫良太郎

$$200 \times 12 = 2,400$$

発行番号 020902195912 P 1 1 2 1 0
24/02/09 08:56 1510

ご署名

お名前 沖縄・自民党 領 収 書 様

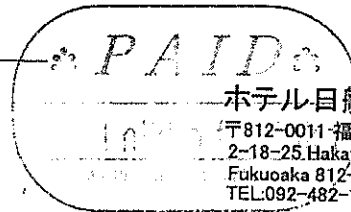
2024/02/09 020902195912

金額 ¥2,400-

但し ご宿泊代として

上記金額正に領収致しました。

印紙税申告納
付につき博多
税務署承認済



宿泊税 2,400 円

統一様式一①

經費區分別支出一覽表

[illegible]

日付	使 途 内 容	支出額	充当割合	充当額
毎月払	会派ホームページ委託料 (@40,000 × 12)	480,000	全額	480,000
	会派ホームページ委託料(振込手数料) (@330 × 8)	2,640	全額	2,640
3/28	会派新聞(令和5年特別号 172,477枚)	1,775,742	全額	1,775,742
A. 小計				2,258,382
B. 支払証明書計				
広聴広報費 充当合計		/	/	2,258,382